

# 第10期東郷町高齢者福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書

## 【抜粋版】

I	アンケート調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査概要	1
3.	報告書の見方	1
II	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果	3
III	在宅介護実態調査の結果	18
IV	ケアマネジャー調査の結果	28
V	事業者調査の結果	35
VI	在宅生活改善調査の結果	37

令和8年2月  
東郷町

# I アンケート調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、「第9期東郷町高齢者福祉計画」が令和8年度をもって満了となることから、新たな計画づくりに向けた基礎資料として、本町在住の65歳以上の高齢者、要支援・要介護認定者及び本町の利用者のサービス計画作成に携わっているケアマネジャー、介護サービスを提供していただいている事業者等を対象として、本町の高齢者福祉に関する実態や高齢者の現状を把握し、高齢者福祉の推進に活用することを目的として実施しました。

## 2. 調査概要

全体で5種の調査を実施しました。各調査の対象、方法、回収状況等は下表のとおりです。

調査種別	対 象	調査基準日	調査期間	調査方法	回収数(回収率)
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	本町在住の65歳以上から2,200人を無作為抽出	令和7年11月1日	令和7年12月26日 ～ 令和8年1月16日	郵送による配布・回収	1,532件(69.6%)
在宅介護実態調査	本町在住の要支援・要介護認定者から1,000人を無作為抽出				641件(64.1%)
ケアマネジャー調査	本町で居宅サービス計画を作成しているケアマネジャー44人	令和7年12月1日	令和7年12月16日 ～ 令和8年1月16日	事業所を通じた郵送による配布・回収	42件(95.5%)
事業者対象調査	本町の介護保険サービス事業者41事業者			電子メールによる配布・回収	41件(100.0%)
在宅生活改善調査	本町の居宅介護支援事業者及び本町のケアマネジャー			事業者13件 ケアマネジャー27人	

## 3. 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇クロス集計の表組においては、「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位に網掛けをしています。

◇集計対象者数（n値）が少ない（10件未満）クロス集計について、コメント対象外としています。さらに、クロス集計において、日常生活圏域ニーズ調査での性別「回答しない」（n=1）、在宅介護実態調査での主な介護者の性別「回答しない」（n=7）、主な介護者の年齢別「わからない」（n=1）は、掲載を省略しています。

◇全体の調査結果について、令和4年度に実施した前回調査との比較を行っています。令和4年度調査の概要は下記のとおりです。なお、今回調査は「本報告書中での表記」の「R4」を「R7」として報告書中で表記しています。

◇令和4年度の結果を掲載していない項目は、今回調査から新たに追加した項目です。

調査種別	本報告書中での表記	配付数	有効回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	R4年一般高齢者	2,200件	1,547件	70.3%
在宅介護実態調査	R4年在宅介護認定者	1,000件	575件	57.5%
ケアマネジャー対象調査	R4年ケアマネジャー	42件	32件	76.2%
事業所対象調査	R4年事業所	35件	35件	100.0%
在宅生活改善調査	R4年生活維持困難者	-	事業者12件 ケアマネジャー32人	-

◇調査結果について、地域ごとの状況を把握するため、日常生活圏域別に集計結果を示していることがあります。本町の日常生活圏域は北部と南部の2圏域となっており、それぞれに含まれる地区は下記の通りです。

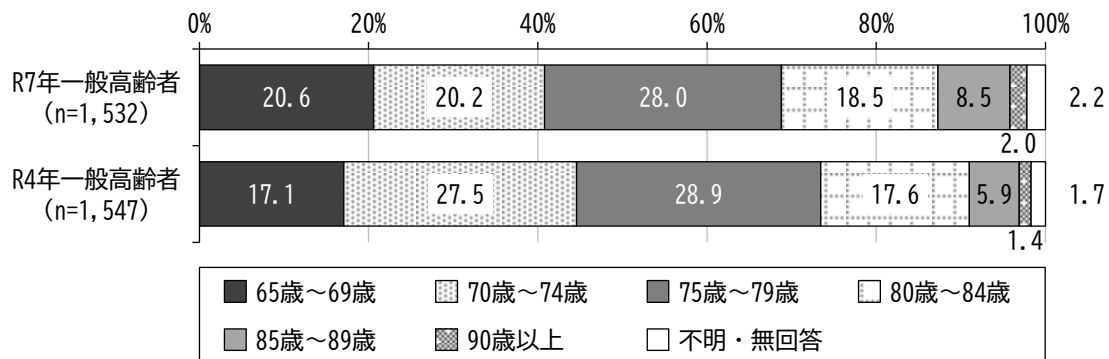
圏域	含まれる地区
北部	諸輪、和合、和合ヶ丘、諸輪住宅、白鳥、御岳、押草団地南、押草団地北、北山台
南部	傍示本、祐福寺、部田、白土、春木台、西白土、清水、兵庫、三ツ池

## II 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

### 1. あなたとあなたの家族や生活状況について

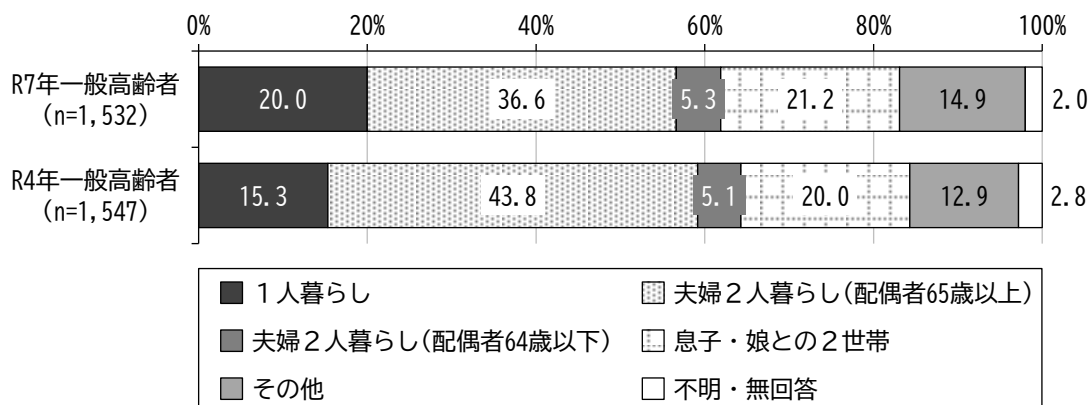
#### (1) 回答者の年齢（数量回答） | 問1

- 後期高齢者が5割以上となっています。



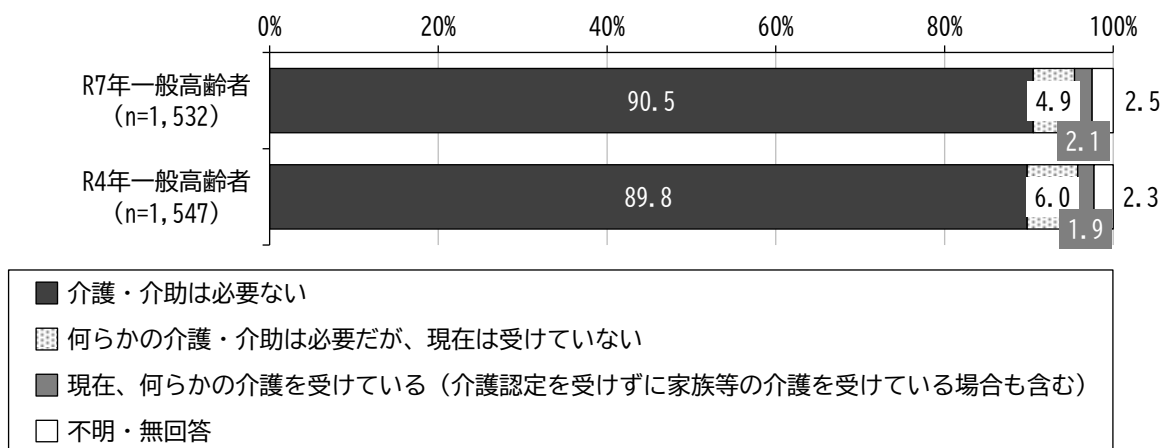
#### (2) 回答者の家族構成（単数回答） | 問5

- 1人暮らしがやや増加し、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が減少しています。



#### (3) 介護・介助の必要（単数回答） | 問6

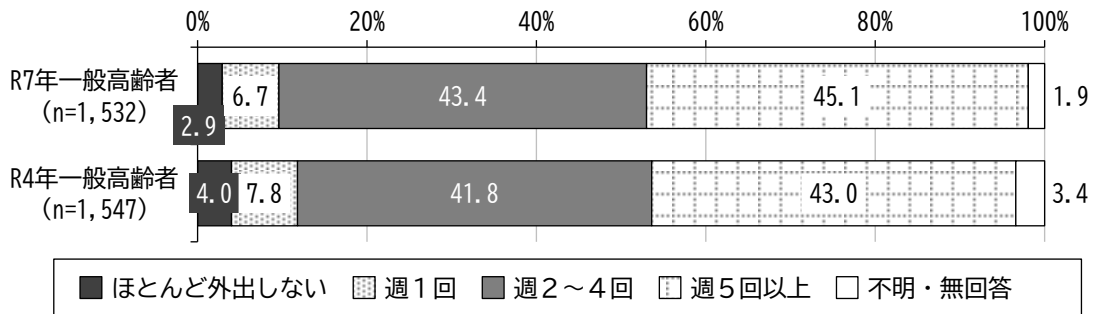
- 介護・介助が必要だが、受けていない人が4.9%となっています。



## 2. 外出について

### (1) 外出頻度（単数回答） | 問 13

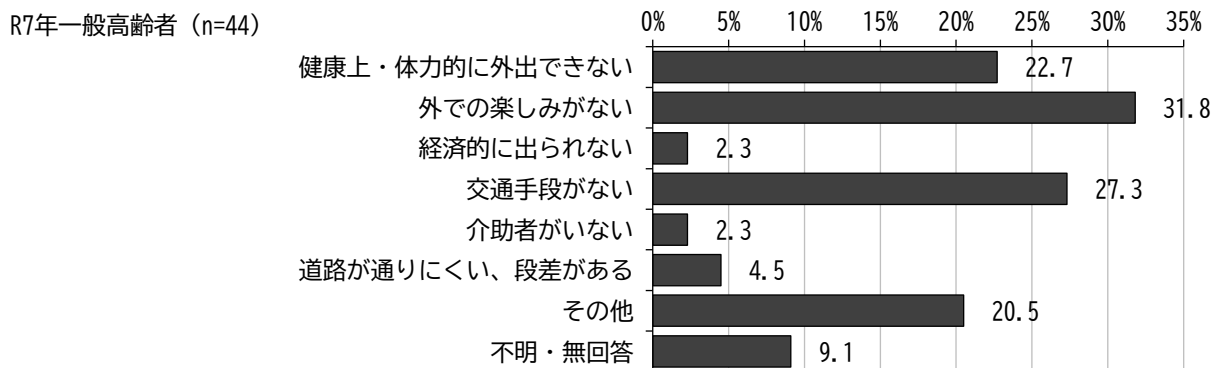
- 「ほとんど外出しない」「週1回」が合わせて約1割となっています。



### (2) ほとんど外出をしていない理由（複数回答）

※問 13 で「ほとんど外出しない」と回答した方のみ

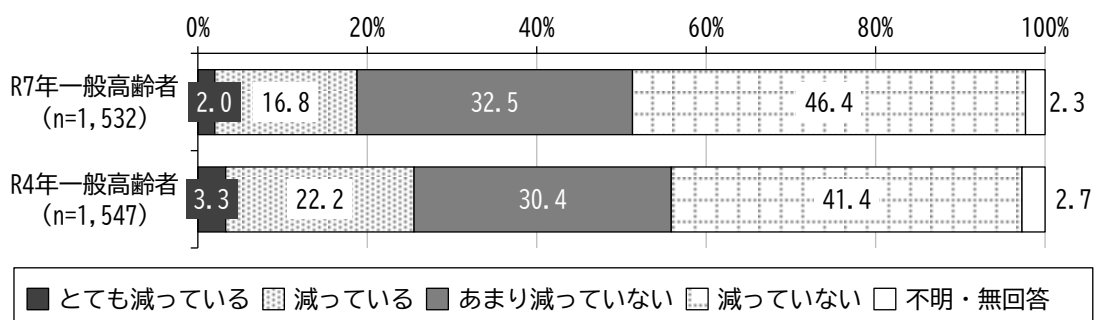
- 「外での楽しみがない」や「交通手段がない」が上位となっています。
- 性別でみると、男性では「外での楽しみがない」、女性では「交通手段がない」が最も高くなっています。



単位：%		健康上・体力的に外出できない	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	介助者がいない	道路が通りにくい、段差がある	その他	不明・無回答
性別	男性 (n=19)	15.8	36.8	0.0	10.5	5.3	5.3	36.8	5.3
	女性 (n=25)	28.0	28.0	4.0	40.0	0.0	4.0	8.0	12.0

### (3) 昨年と比べて外出回数の減少状況（単数回答） | 問 14

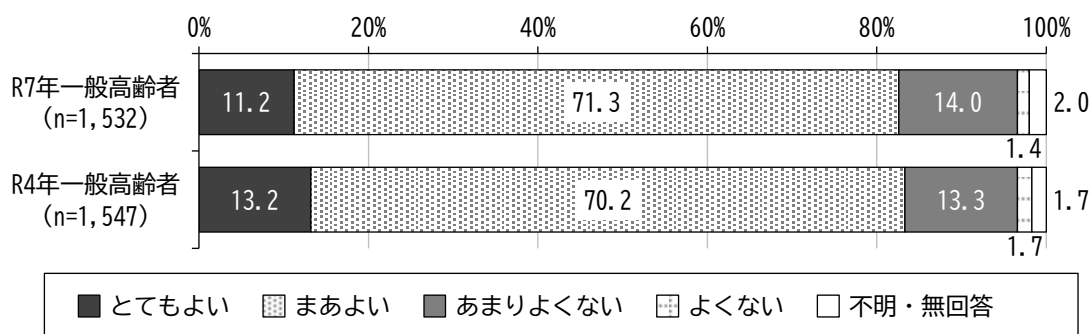
- 外出が減っている人は減少し、減っていない人が増加しています。



### 3. 健康について

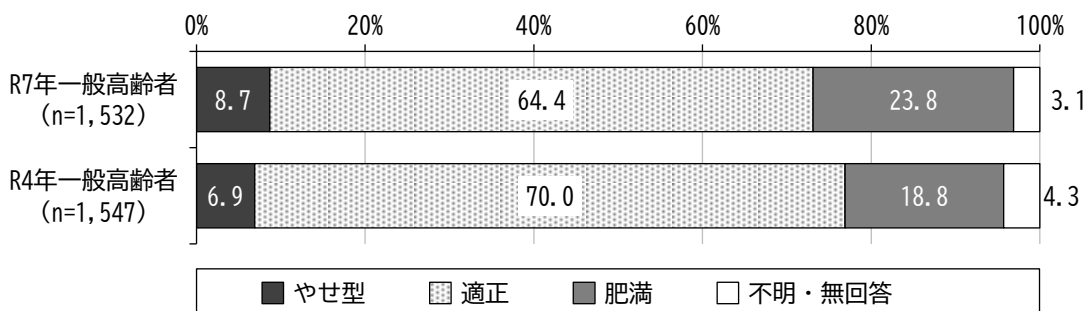
#### (1) 健康状態 | 問 43

- 健康状態についてよい人は8割以上となっています。
- 前回調査と比較すると、大きな変化はありません。



#### (2) BMI値 (3区分) | 問 16

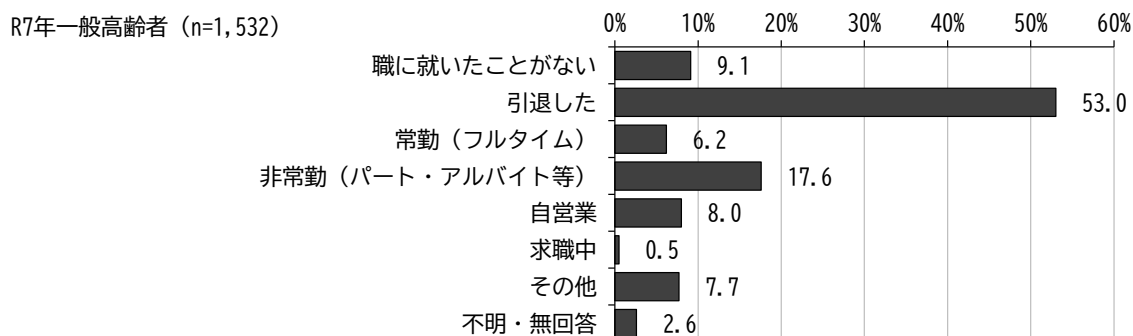
- 前回調査より「やせ型」「肥満」が増加し、「適正」が減少しています。



### 4. 就労について

#### (1) 就労状態 (複数回答) | 問 29

- 約3割が就労しています。

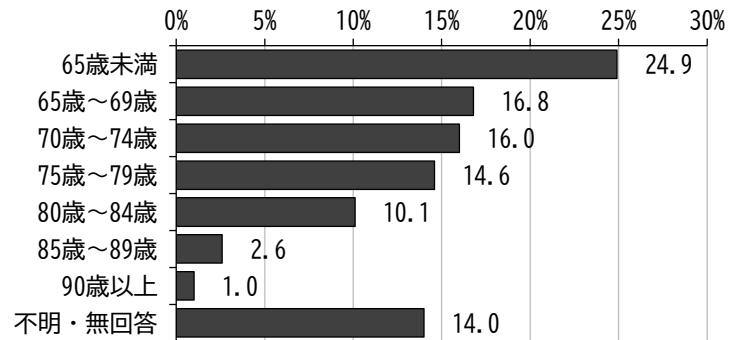


## (2) 何歳まで働きたいか（引退した方は何歳まで就労していたか）（数量回答） | 問 30

※職に就いたことがない人を除く。

- 約3割が75歳以上になっても働きたい、または働いていたと回答しています。

R7年一般高齢者 (n=1,360)

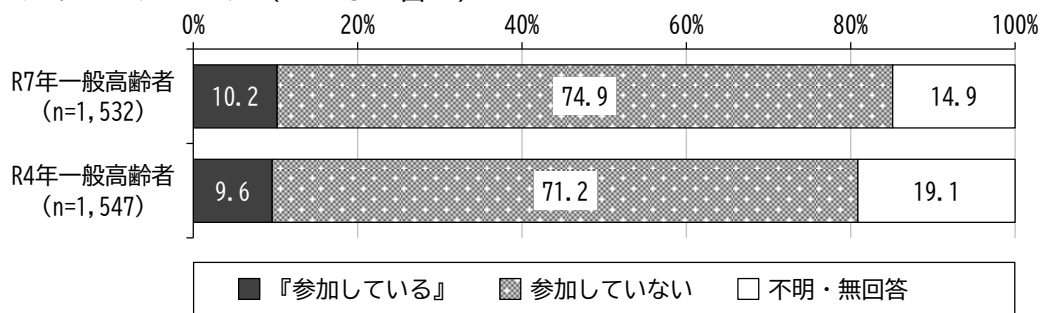


## 5. 地域での活動について

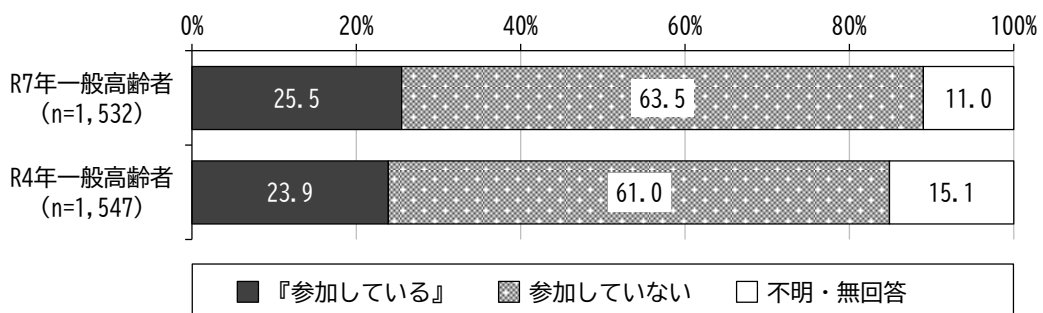
### (1) 会・グループ等への参加状況（単数回答） | 問 30

- すべての項目で参加していない人が6割以上となっています。

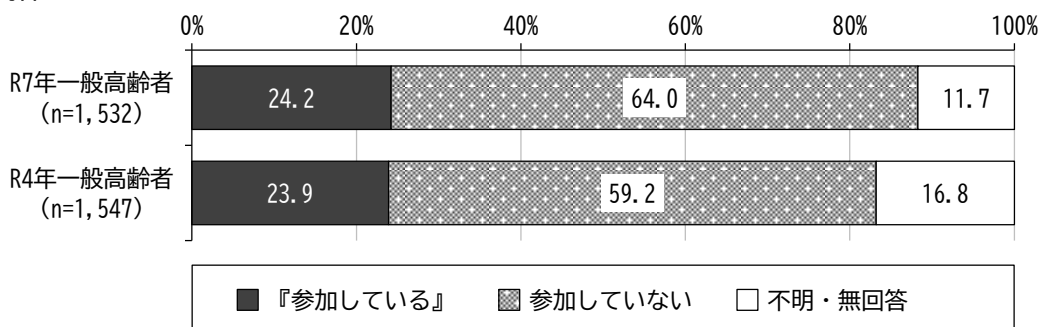
#### ① ボランティアのグループ（NPOを含む）



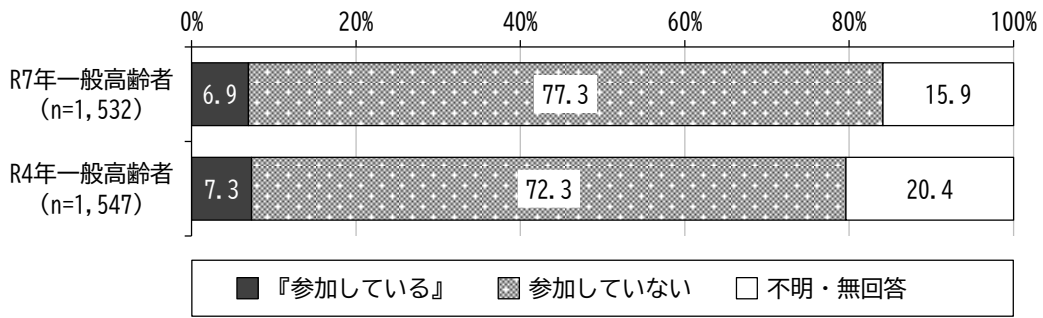
#### ② スポーツ関係のグループやクラブ



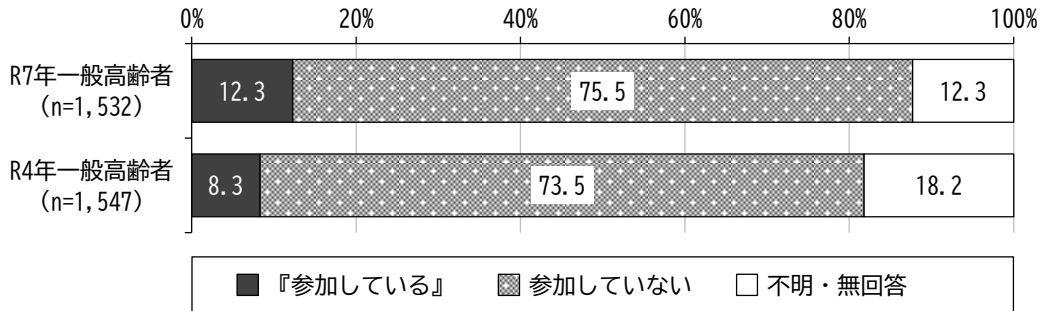
#### ③ 趣味関係のグループ



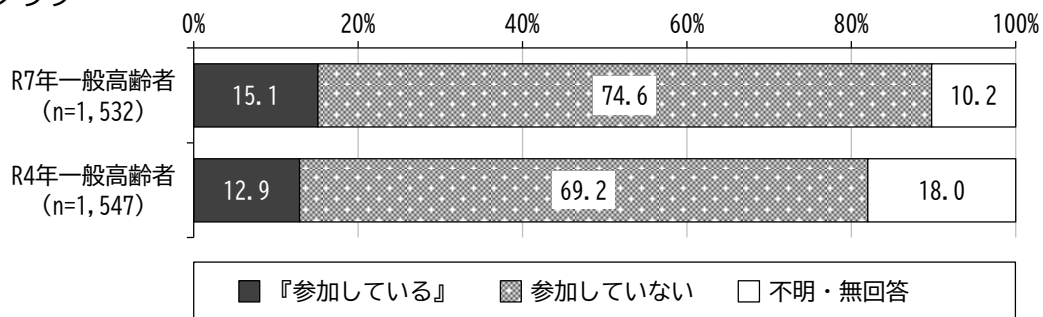
④学習・教養サークル



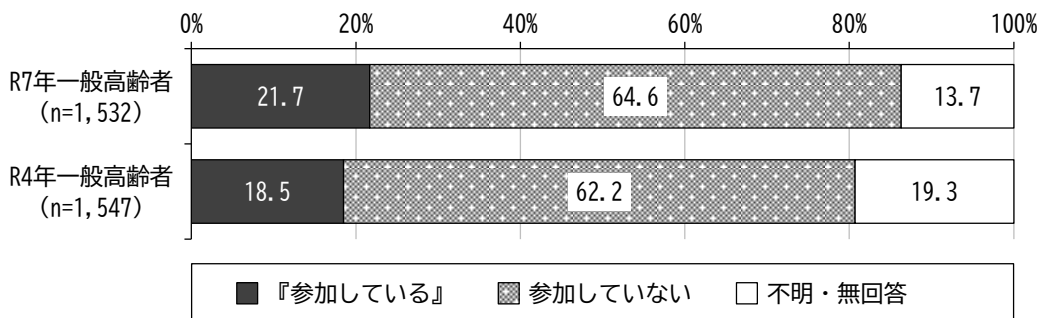
⑤介護予防のための通いの場



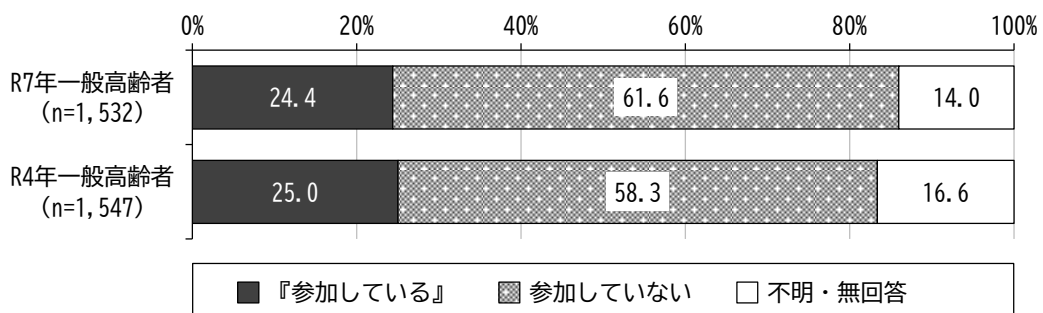
⑥老人クラブ



⑦区・自治会

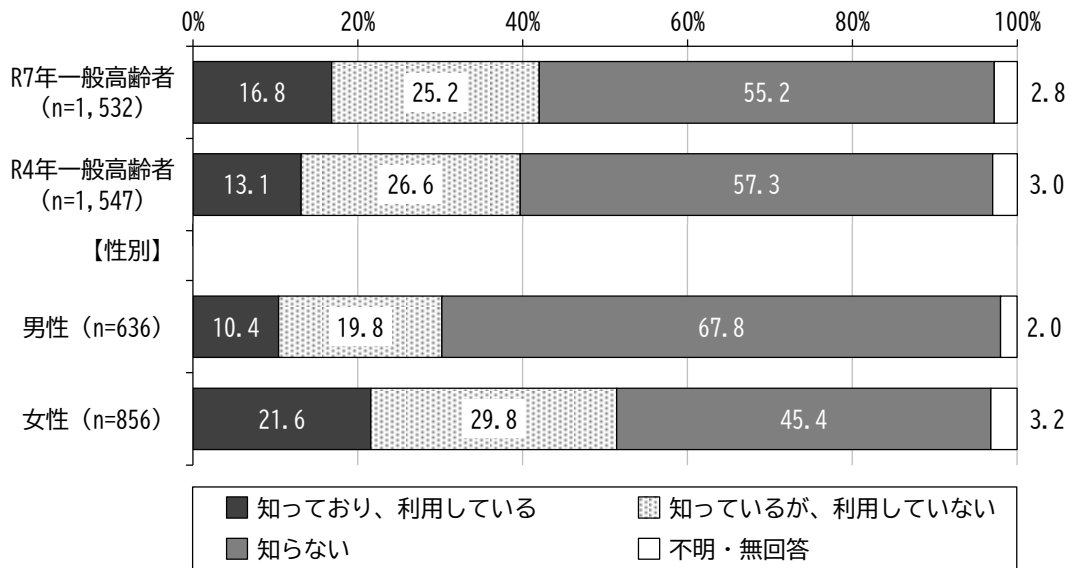


⑧就労等収入のある仕事



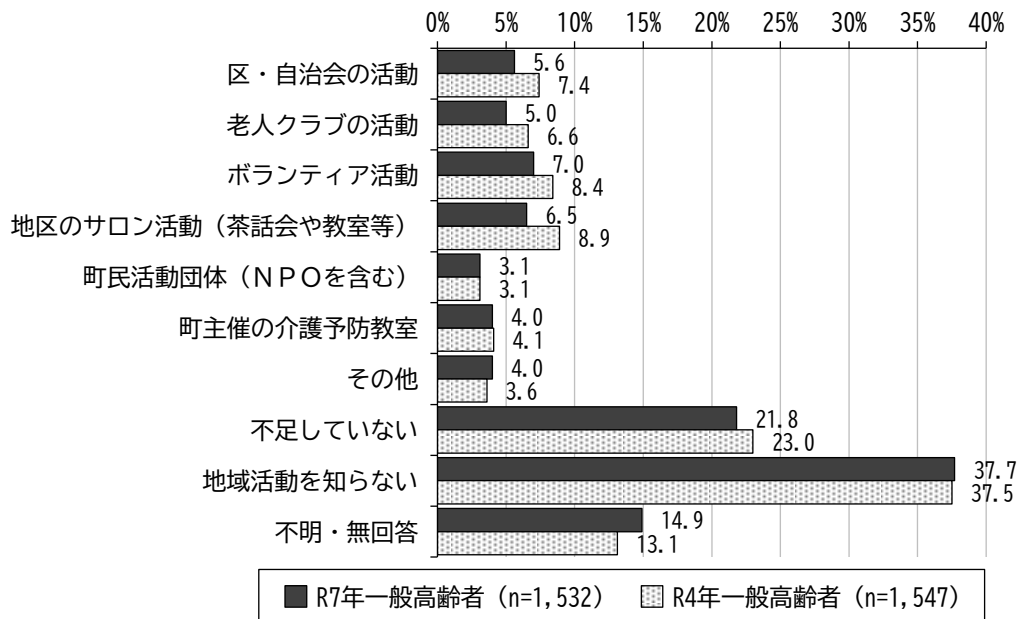
## (2) 社会参加ポイント制度の認知度（単数回答） | 問 32

- 社会参加ポイント制度を知っている人は42.0%となっています。
- 前回調査と比較して、知っている人は2.3ポイント増加しています。
- 女性に比べて男性で、利用している人や知っている人が少ない傾向にあります。



## (3) 不足していると思う地域活動（複数回答） | 問 33

- より若い世代の高齢者ほど、地域活動に関心を持っていない（地域活動を知らない、または不足していないと回答）傾向が見られます。

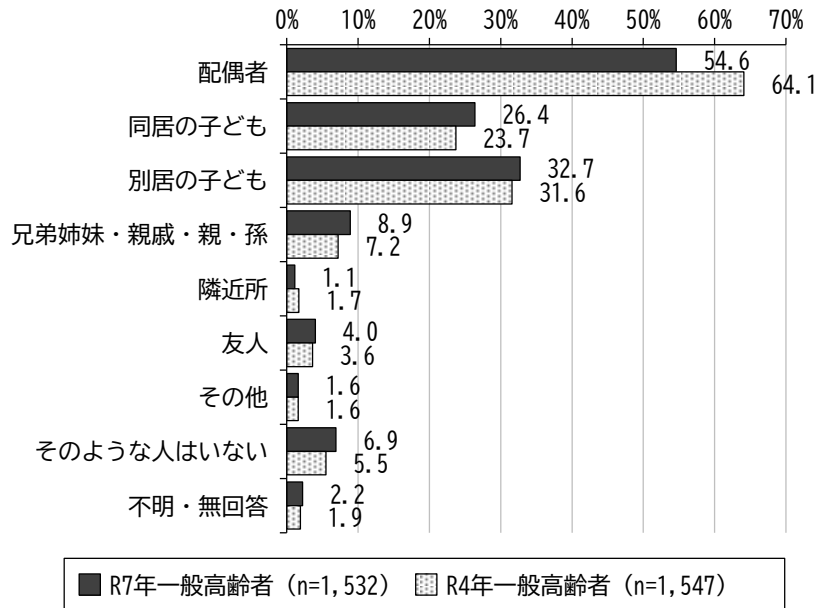


単位：%		区・自治会の活動	老人クラブの活動	ボランティア活動	や教室（茶話会）	地区のサロン	町民活動団体（NPOを含む）	町主催の介護予防教室	その他	不足していない	知らない地域活動を	不明・無回答
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	3.5	1.3	5.4	4.1	3.2	3.2	3.8	23.4	52.8	6.0	
	70歳～74歳 (n=310)	4.5	3.2	9.7	6.8	3.2	3.2	3.9	19.4	45.8	8.7	
	75歳～79歳 (n=429)	5.1	4.9	6.3	6.3	2.8	3.3	4.2	24.5	35.7	15.2	
	80歳～84歳 (n=283)	11.0	8.8	9.2	9.9	3.2	7.1	2.8	19.8	24.7	20.1	
	85歳～89歳 (n=130)	3.8	10.8	2.3	5.4	3.1	3.8	6.9	16.9	23.8	30.8	
	90歳以上 (n=31)	6.5	3.2	3.2	6.5	0.0	0.0	3.2	29.0	19.4	35.5	

## 6. 助け合いについて

### (1) 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人（複数回答） | 問 38

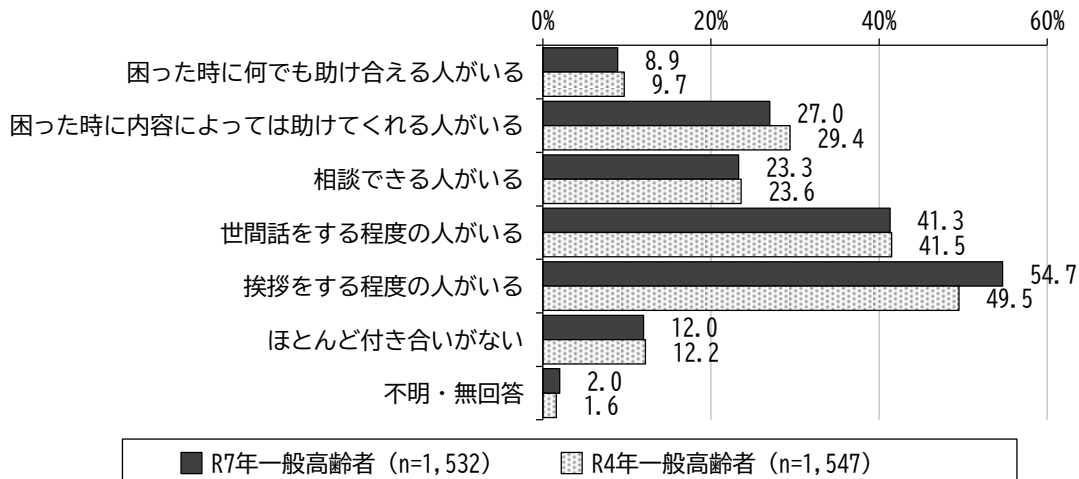
- 全体で「そのような人はいない」が6.9%となっていますが、一人暮らし高齢者では24.2%となっています。
- 「配偶者」が10ポイント減少し、その他の親族がそれぞれわずかに増加しています。



単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親	隣近所	友人	その他	はこのような人	不明・無回答
家族構成別	1人暮らし (n=306)	1.3	1.6	52.3	13.7	2.9	11.8	2.9	24.2	3.9
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=561)	85.6	2.9	38.5	6.1	0.7	2.1	1.1	2.9	1.4
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n=81)	91.4	7.4	8.6	2.5	0.0	1.2	1.2	2.5	0.0
	息子・娘との2世帯 (n=325)	46.2	75.1	20.9	8.0	0.3	1.5	1.2	1.2	1.8
	その他 (n=228)	50.0	54.8	19.3	13.2	0.0	2.6	1.8	3.5	1.3

### (2) 地域の人との付き合いの程度（複数回答） | 問 40

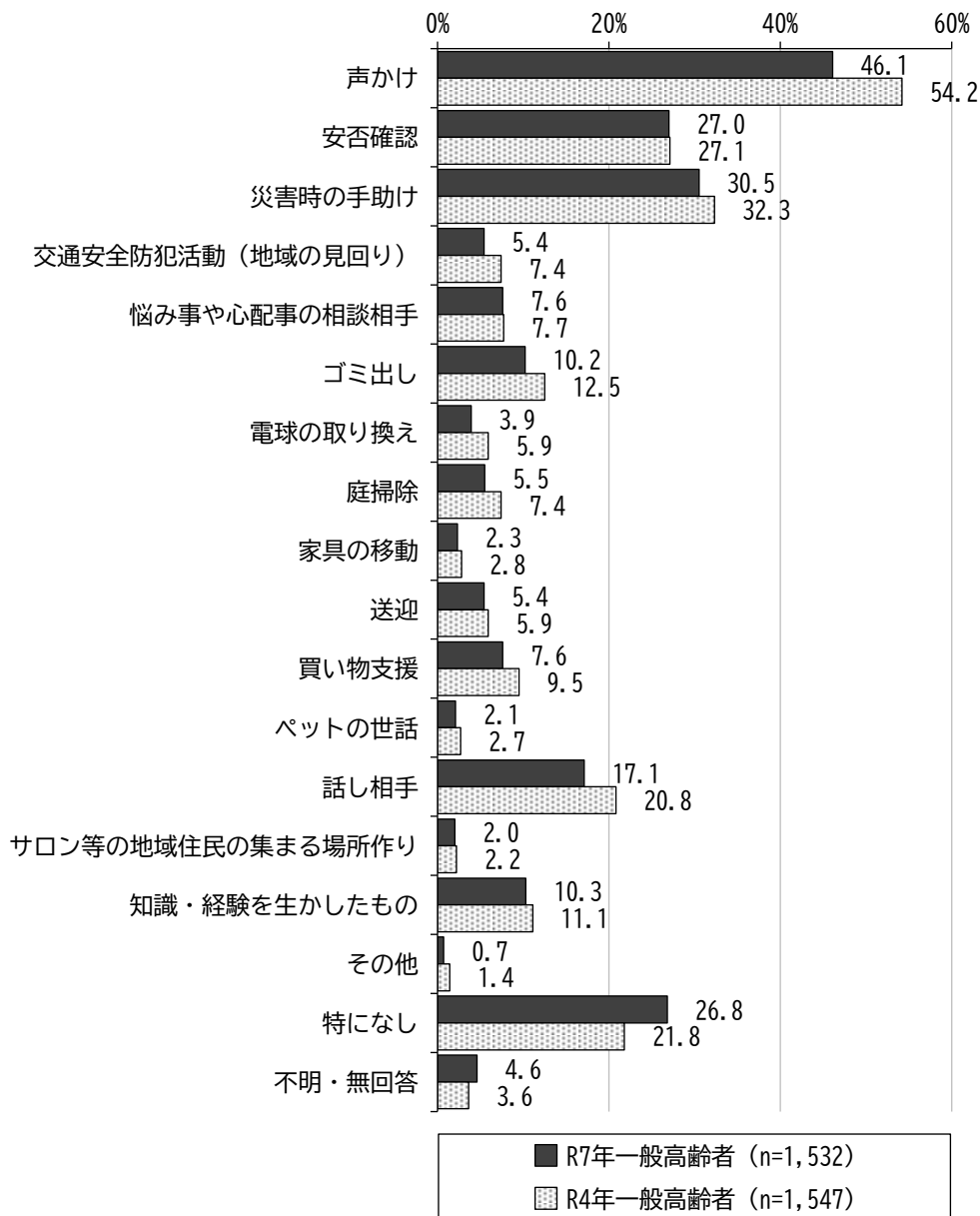
- 地域の人との付き合いは性別・年齢・地区によって異なります。



単位：%		るで困 人が助 たいけ いけ時 る合に え何	人助容困 がけにっ いてよた るくつ時 れるては 内	が相談 いので るでき る人	る程世 度の間 の話 人を がす いる	度挨 の拶 人を がす いる 程	合ほと いんど が付き ない	不明 ・無 回答
性別	男性 (n=636)	5.3	18.7	16.4	32.2	53.5	17.1	1.9
	女性 (n=856)	11.3	32.9	28.3	47.9	55.8	8.1	1.9
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	3.8	16.5	15.5	32.0	55.4	20.3	0.9
	70歳～74歳 (n=310)	6.8	26.8	23.9	40.6	54.5	14.5	1.6
	75歳～79歳 (n=429)	10.5	29.8	24.9	41.3	55.2	8.6	1.6
	80歳～84歳 (n=283)	12.0	36.4	27.9	51.6	56.5	5.3	2.5
	85歳～89歳 (n=130)	10.8	26.9	26.2	44.6	53.8	10.0	1.5
	90歳以上 (n=31)	16.1	12.9	12.9	29.0	35.5	16.1	12.9
居住地区別	諸輪 (n=137)	12.4	20.4	19.0	43.8	48.9	13.1	1.5
	和合 (n=115)	11.3	31.3	27.8	40.9	53.9	11.3	1.7
	傍示本 (n=117)	7.7	27.4	30.8	53.0	50.4	6.8	3.4
	祐福寺 (n=96)	9.4	34.4	31.3	40.6	50.0	10.4	1.0
	部田 (n=46)	4.3	41.3	30.4	43.5	47.8	2.2	6.5
	白土 (n=157)	10.2	22.3	22.3	41.4	51.6	15.3	2.5
	和合ヶ丘 (n=119)	10.1	37.0	18.5	41.2	51.3	6.7	3.4
	諸輪住宅 (n=15)	26.7	20.0	46.7	6.7	40.0	13.3	0.0
	白鳥 (n=140)	5.7	20.7	20.0	38.6	62.1	12.1	0.7
	御岳 (n=111)	7.2	27.0	25.2	44.1	64.0	9.0	0.0
	春木台 (n=114)	6.1	24.6	14.9	39.5	64.9	17.5	0.0
	北山台 (n=100)	15.0	30.0	21.0	42.0	54.0	14.0	4.0
	押草団地北 (n=41)	2.4	26.8	24.4	31.7	58.5	12.2	2.4
	押草団地南 (n=44)	9.1	40.9	27.3	40.9	47.7	9.1	0.0
	西白土 (n=35)	8.6	28.6	28.6	54.3	65.7	0.0	0.0
	清水 (n=42)	2.4	14.3	23.8	31.0	57.1	16.7	0.0
兵庫 (n=34)	0.0	20.6	14.7	26.5	55.9	32.4	0.0	
三ツ池 (n=35)	2.9	11.4	11.4	28.6	54.3	22.9	5.7	

### (3) 地域の人に対して手助けや協力できること（複数回答） | 問 42

- 声かけや災害時の手助けの割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、全ての項目で割合が減少しており、「特になし」が増加しています。

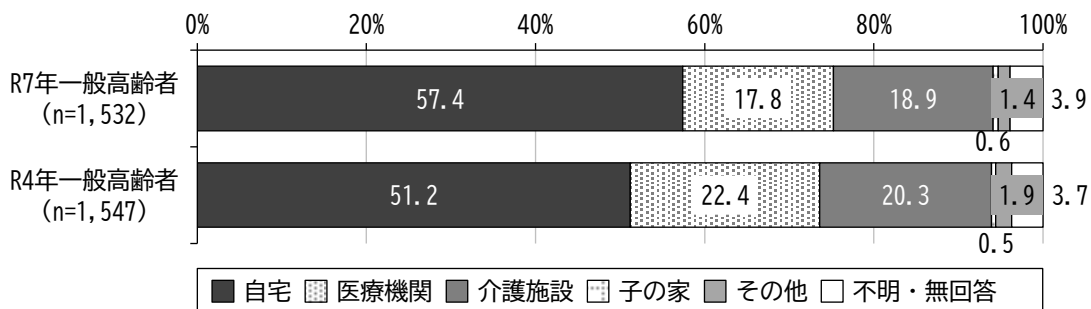


※R7 年度調査の選択肢「電球の取り換え」は、R4 年度調査では「電球換え」となっています。

## 7. 在宅医療・介護について

### (1) 医療や介護が必要になったときに、最も過ごしたい場所（単数回答） | 問 49

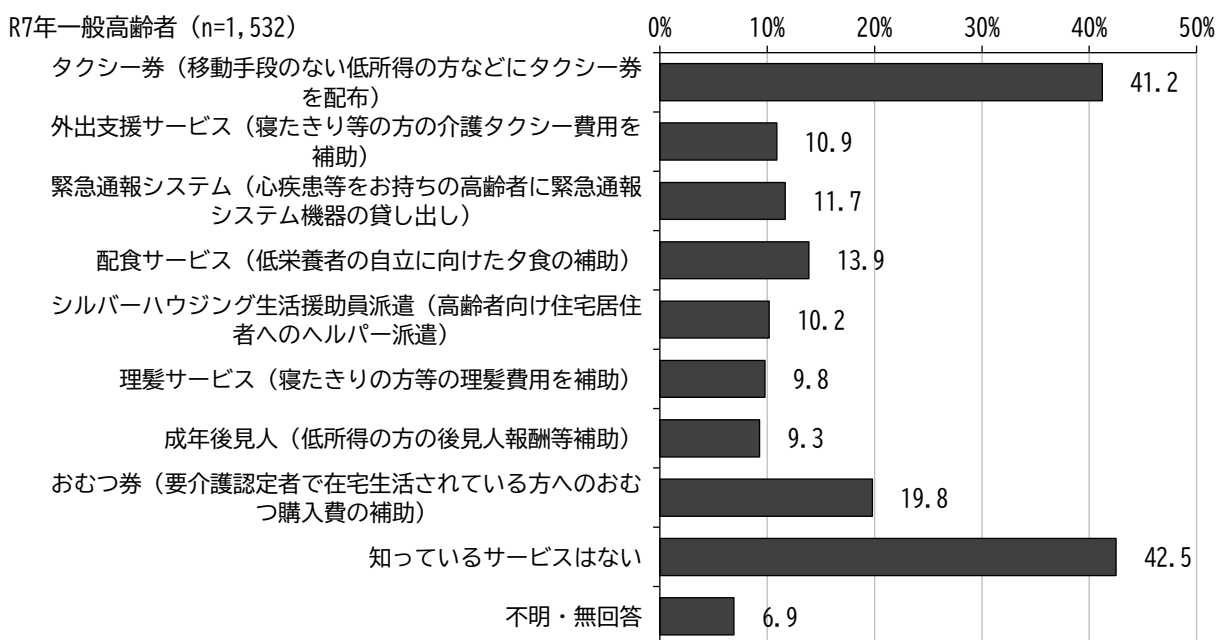
- 自宅が約6割となっています。
- 前回調査と比較すると、自宅が増加し、医療機関や介護施設は減少しています。



## 8. 介護保険制度について

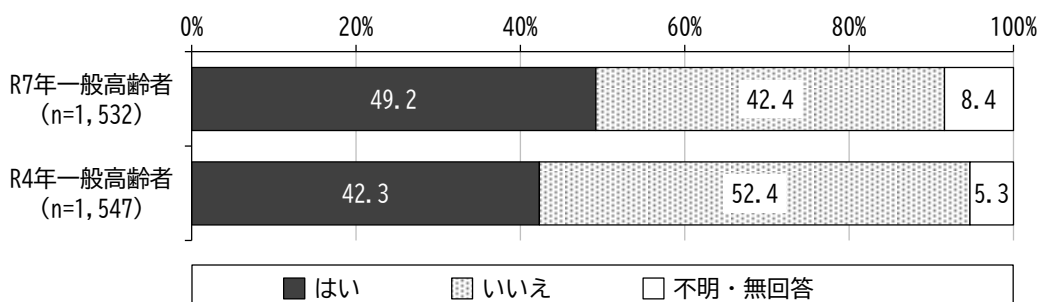
### (1) 町が実施している高齢者福祉サービスの認知度（複数回答） | 問 55

- 知っているサービスはないの割合が最も高くなっています。
- タクシー券、おむつ券以外のサービスは1割前後と認知度は低くなっています。



### (2) 地域包括支援センターの認知度（単数回答） | 問 56

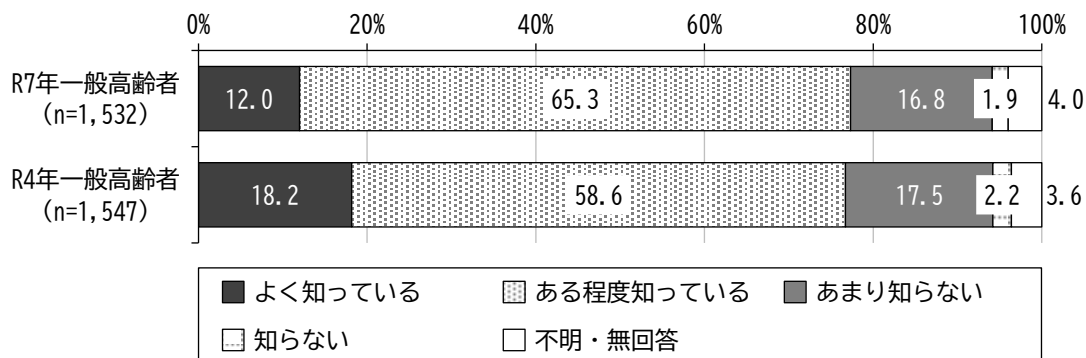
- 地域包括支援センターの認知度は約5割となっています。
- 前回調査と比較すると、認知度は向上しています。



## 9. 認知症について

### (1) あなたは、認知症について知っていますか。(単数回答) | 問 59

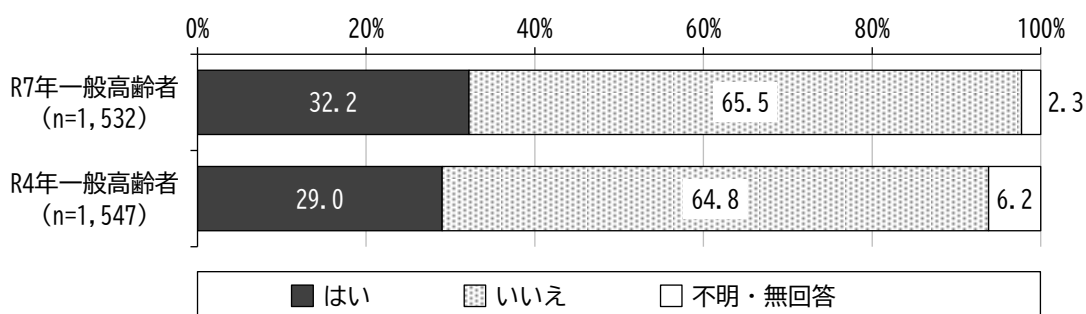
- 認知症について知っている人は約8割となっています。
- 前回調査と比較すると、よく知っている人が減少しています。



※R7年度調査の選択肢「よく知っている」「ある程度知っている」「あまり知らない」は、R4年度調査では「どのような症状かよく知っている」「どのような症状かある程度知っている」「言葉ぐらいは知っている」となっています。

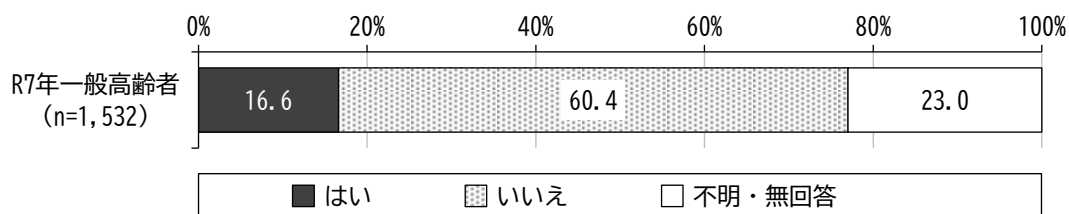
### (2) 認知症に関する相談窓口の認知度 (単数回答) | 問 60

- 認知度はわずかに上がっていますが、地域包括支援センターと比べると低くなっています。



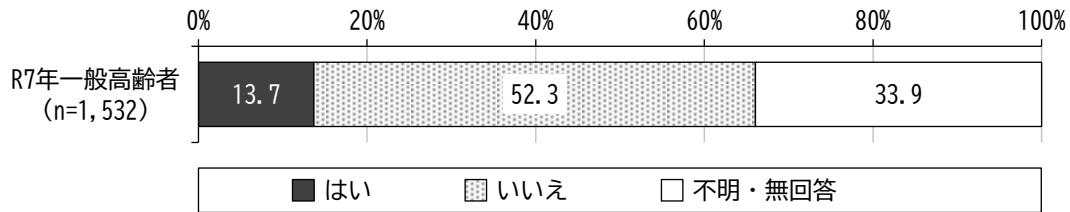
### (3) 地域生活において認知症の人が尊重され、本人が望む生活が継続できているか (単数回答) | 問 61

- 「はい」が16.6%、「いいえ」が60.4%となっています。



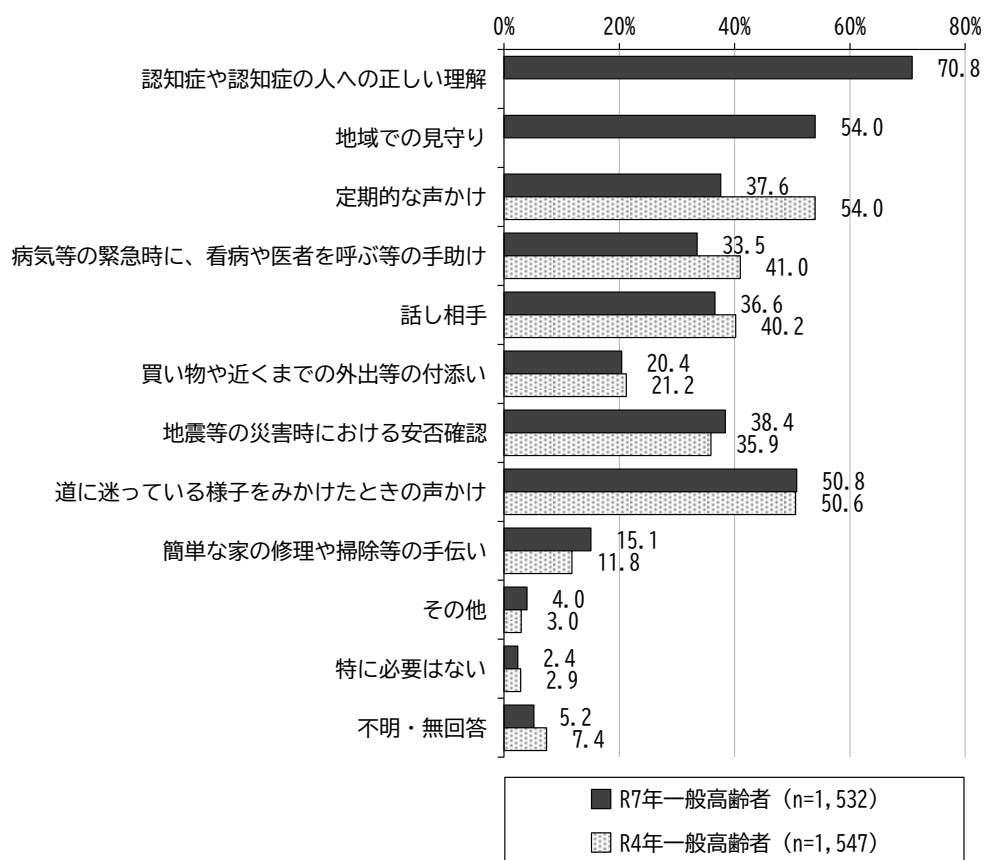
(4) 東郷町は認知症の人が自分らしく暮らせるまちになっているか (単数回答) | 問 64

● 「はい」が13.7%、「いいえ」が52.3%となっています。



(5) 認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくために必要な地域住民の協力 (複数回答) | 問 63

● 認知症や認知症の人への正しい理解や地域での見守りが求められています。



※選択肢：「認知症や認知症の人への正しい理解」「地域での見守り」はR7年度調査のみとなっています。

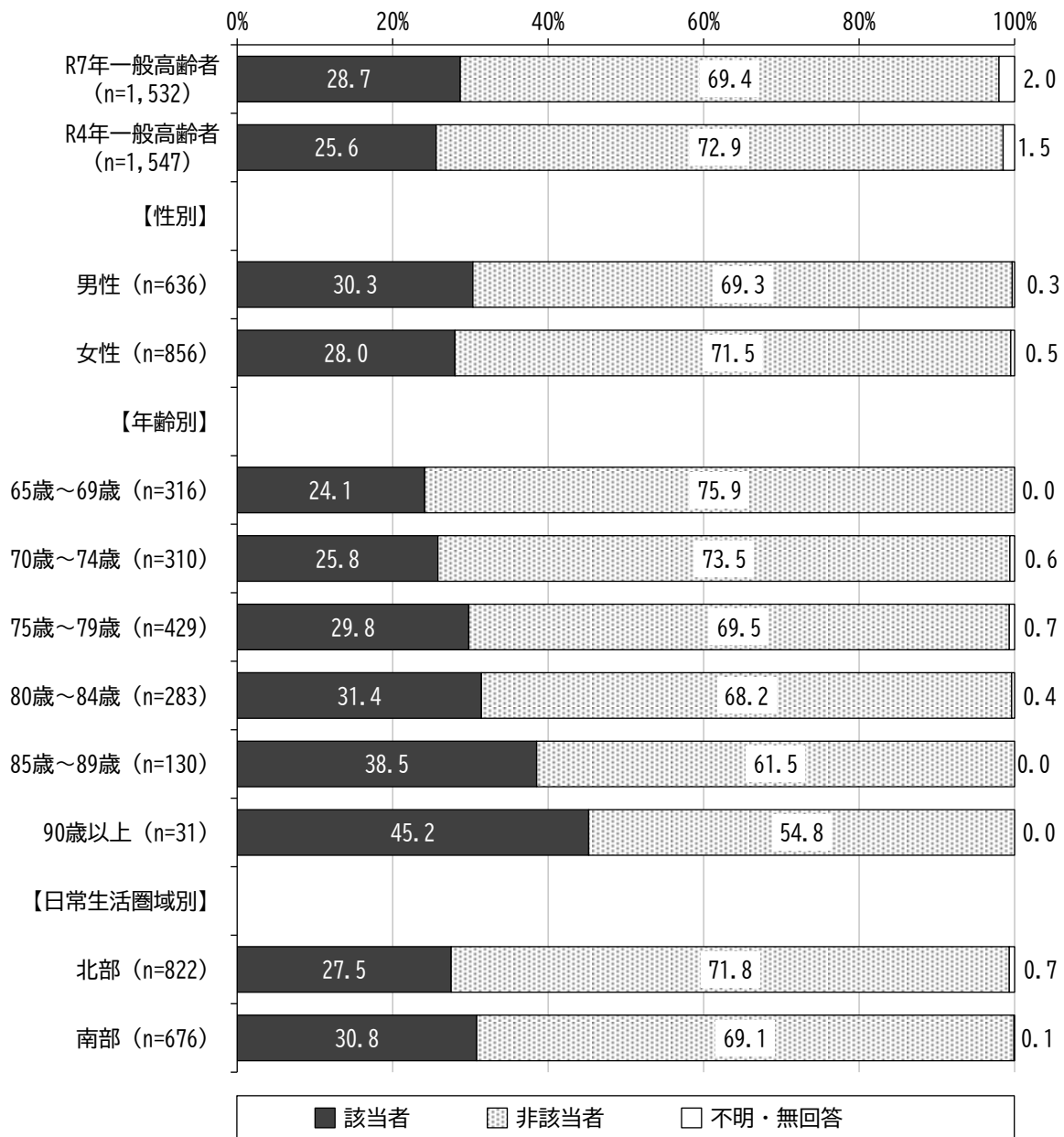
## 10. 調査結果からみる調査対象者の評価

### (1) 転倒リスク

#### ■ 評価方法

「過去1年間に転んだ経験があるか」で該当する選択肢（「何度もある」または「1度ある」）が回答された場合、該当者（転倒リスクのある高齢者）とした。

- 前回調査と比較すると、男性や65～69歳の高齢者でリスクのある人が増加傾向にあります。

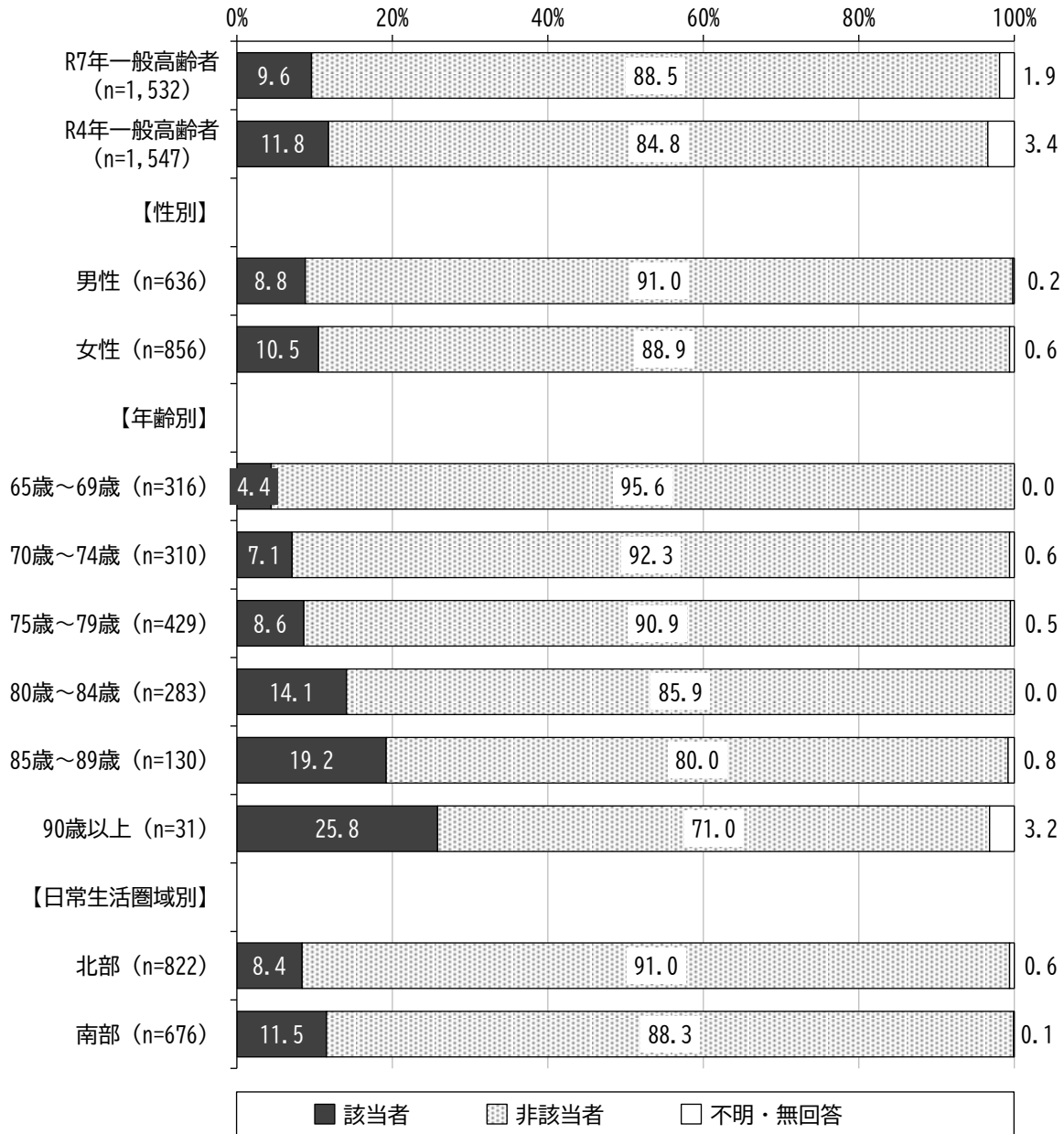


## (2) 閉じこもり傾向

### ■評価方法

「週にどの程度外出するか」で該当する選択肢（「ほとんど外出しない」または「週1回」）が回答された場合、該当者（閉じこもり傾向のある高齢者）とした。

- 年齢が上がるにつれて、リスクのある人の割合は増加しています。



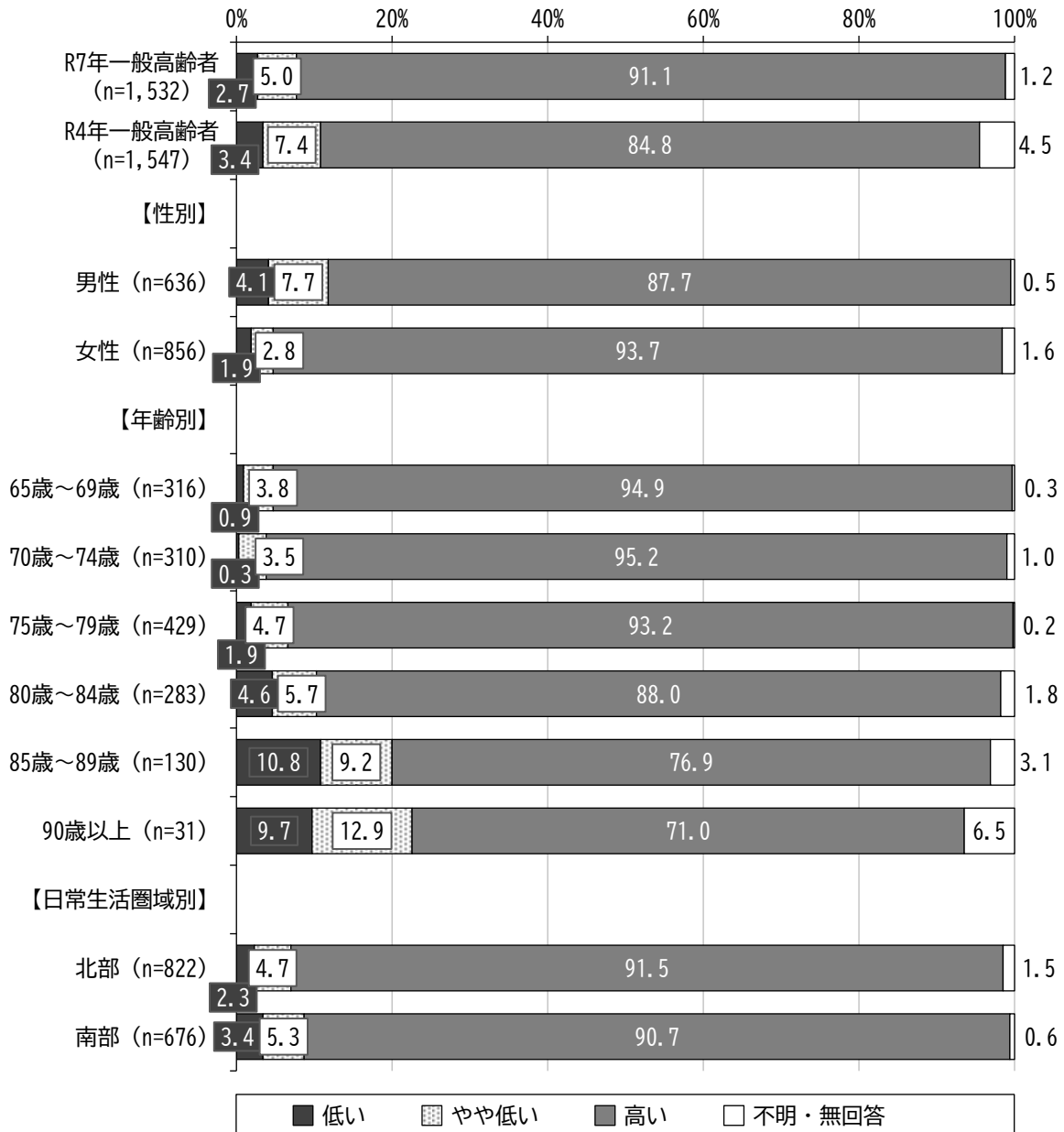
### (3) 手段的自立度 (IADL)

※ IADLとは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、ADL (日常生活動作：食事、排せつ、入浴などの基本的な行動) より複雑で高次な動作のことを言います。(例：買い物や洗濯・掃除などの家事全般、金銭や服薬の管理、外出時に乗り物に乗ることなど)

#### ■ 評価方法

「バスや電車を使って一人で外出しているか」「自分で食品・日用品の買物をしているか」「自分で食事の用意をしているか」「自分で請求書の支払いをしているか」「自分で預貯金の出し入れをしているか」について、「できるし、している」または「できるけど、していない」と回答した方を1点とし、5点満点で評価した。5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価した。

- 女性より男性でIADLの低下が目立つ結果となっておりますが、男性の低下は改善傾向にあります (前回比較)。

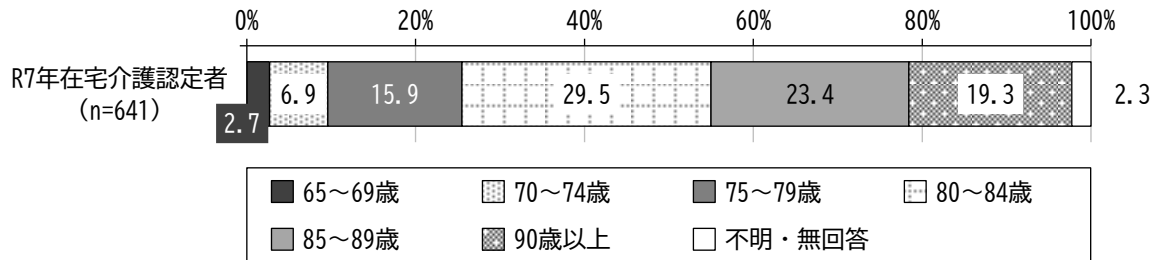


### Ⅲ 在宅介護実態調査の結果

#### 1. 調査対象者自身について

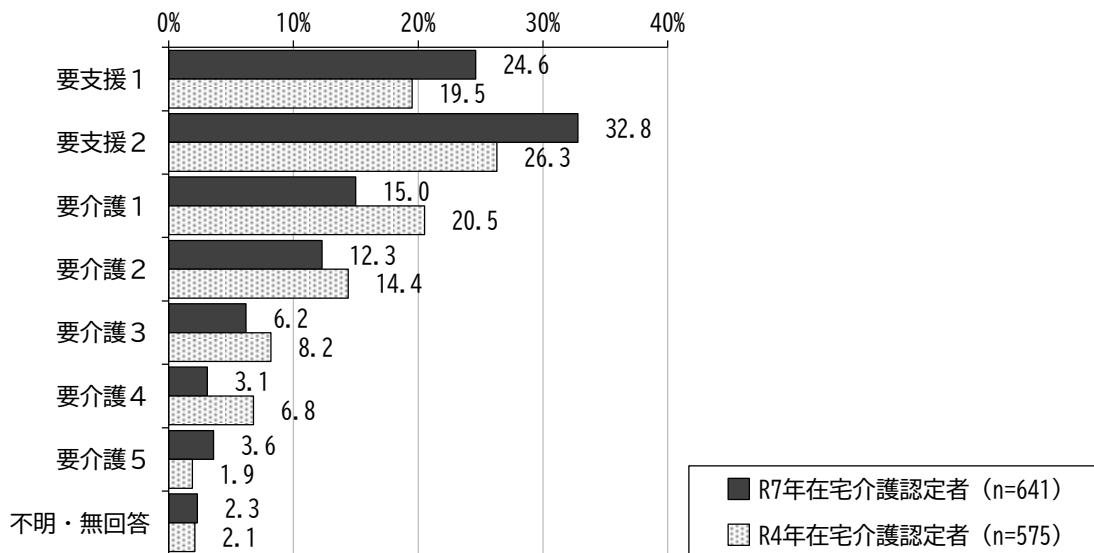
##### (1) 回答者の年齢

- 80歳代前半が最も多くなっています。



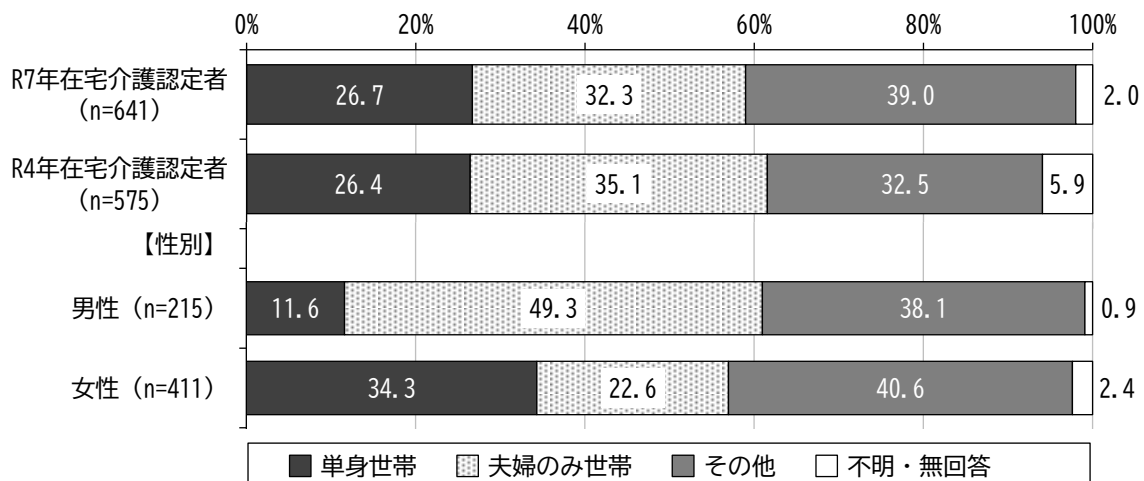
##### (2) 回答者の要介護度

- 要支援2が最も多く、次いで要介護1が多くなっています。
- 前回調査と比較すると、要支援1・2が増加しています。



##### (3) 世帯類型 (単数回答) | 問1

- 前回調査と比較すると、「夫婦世帯のみ世帯」がわずかに減少し、「その他」が増加しています。
- 男性で夫婦のみの世帯の割合が高く、女性で単身世帯の割合が高くなっています。

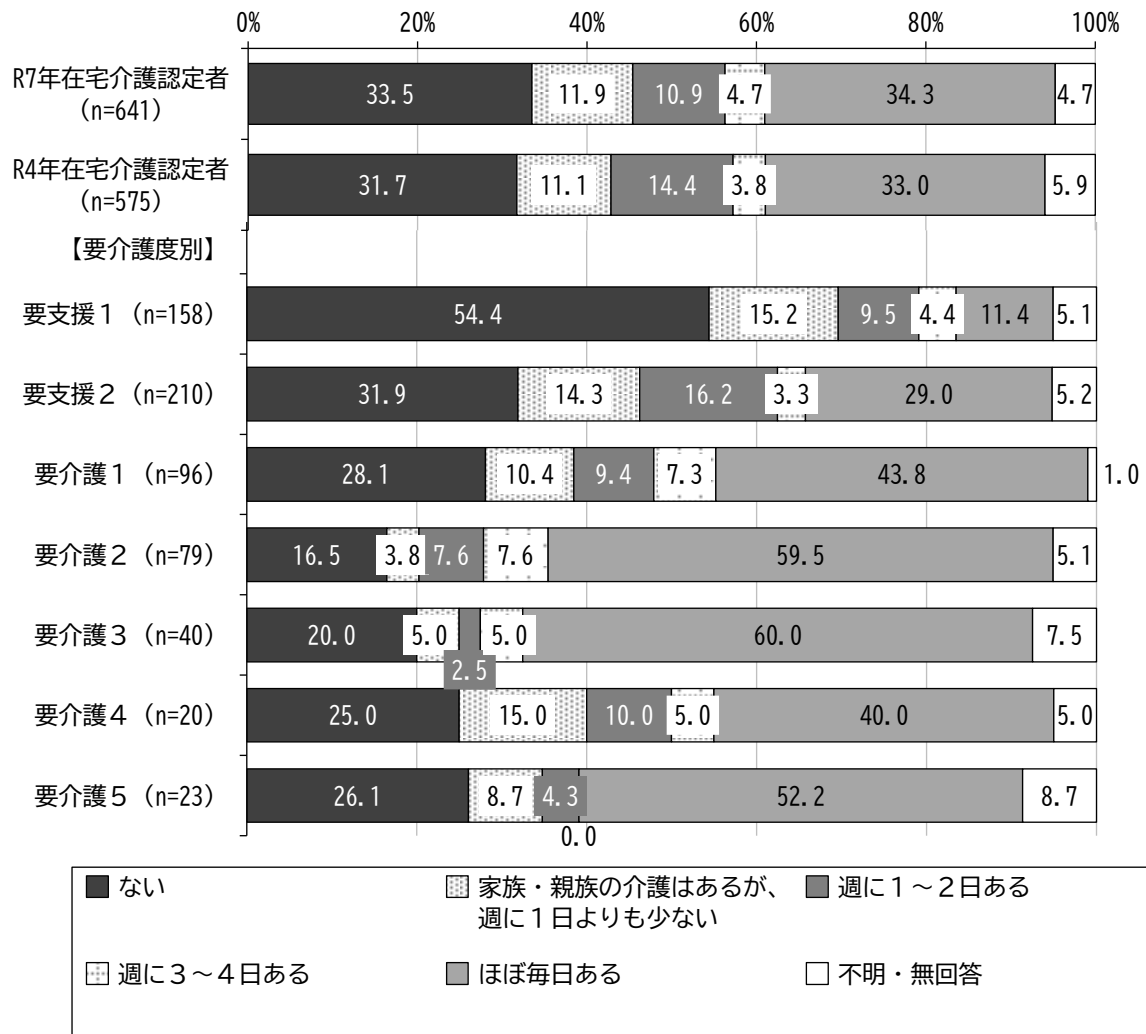


## 2. 在宅介護の状況について

### (1) 家族や親族からの介護の頻度（単数回答） | 問2

◆ 「ない」と「ほぼ毎日ある」に2極化している傾向です。

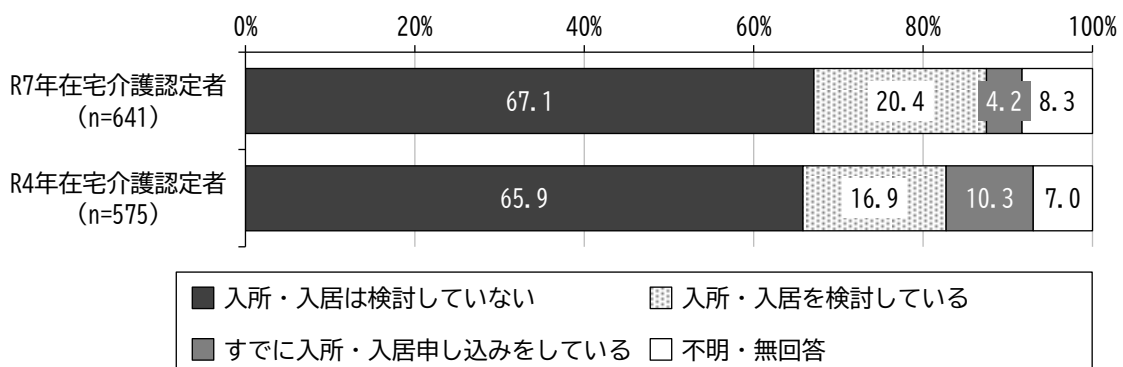
◆ 要介護度が3以上でも「ない」という人2割を超えています。



### (2) 施設等への入所・入居の検討状況（単数回答） | 問8

● 「入所・入居を検討している」は20.4%、「すでに申し込みをしている」が4.2%となっています。

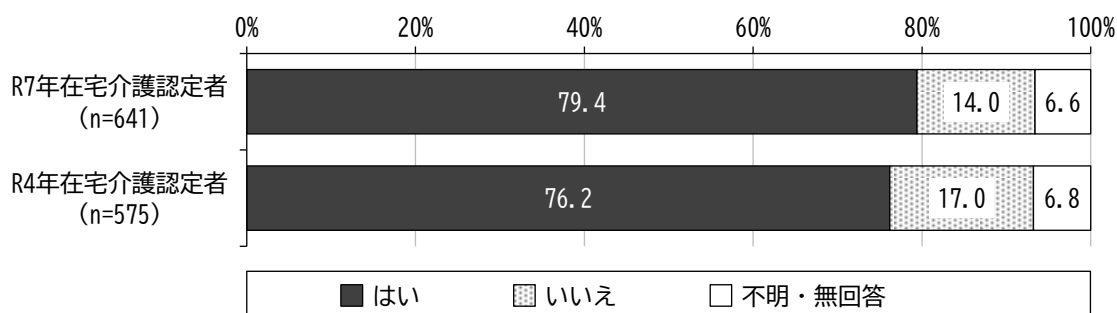
● 前回調査と比較すると、「入所・入居を検討している」は増加、「すでに申し込みをしている」は減少しています。



### 3. 地域包括支援センターについて

#### (1) 地域包括支援センターの認知度（単数回答） | 問9

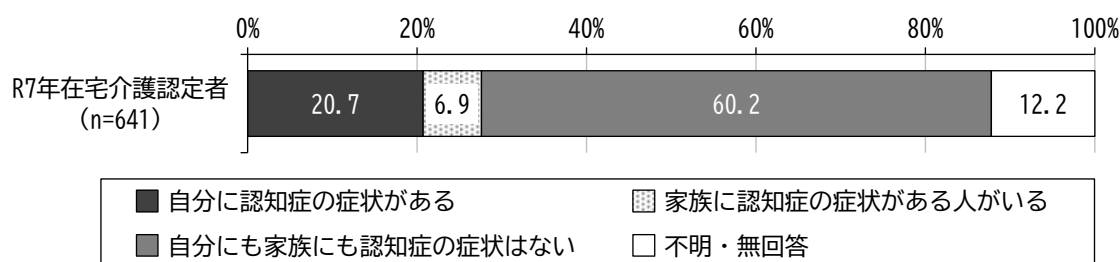
- 地域包括支援センターの認知度は約8割となっています。
- 前回調査と比較すると、認知度はわずかに向上しています。



### 4. 認知症施策について

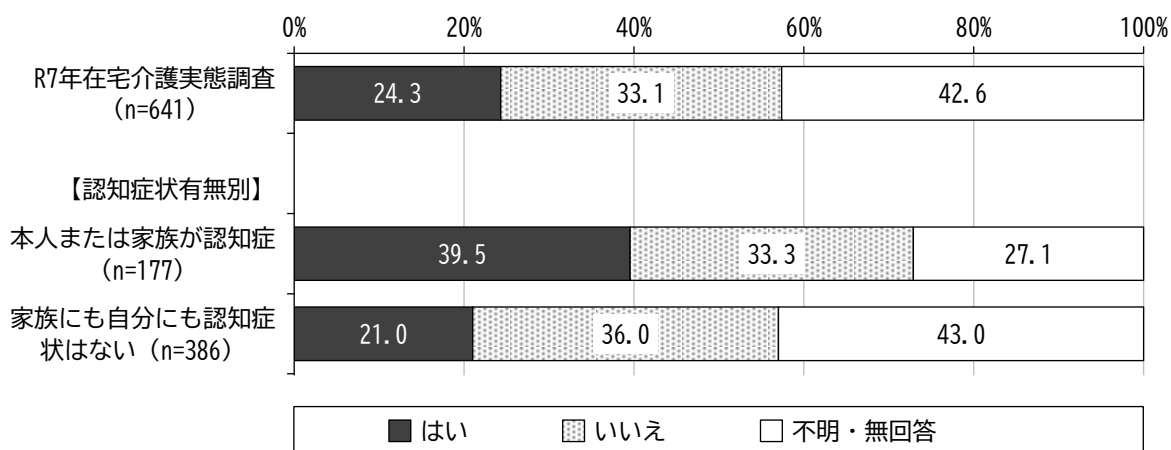
#### (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人の有無（単数回答） | 問18

- 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人は約3割となっています。



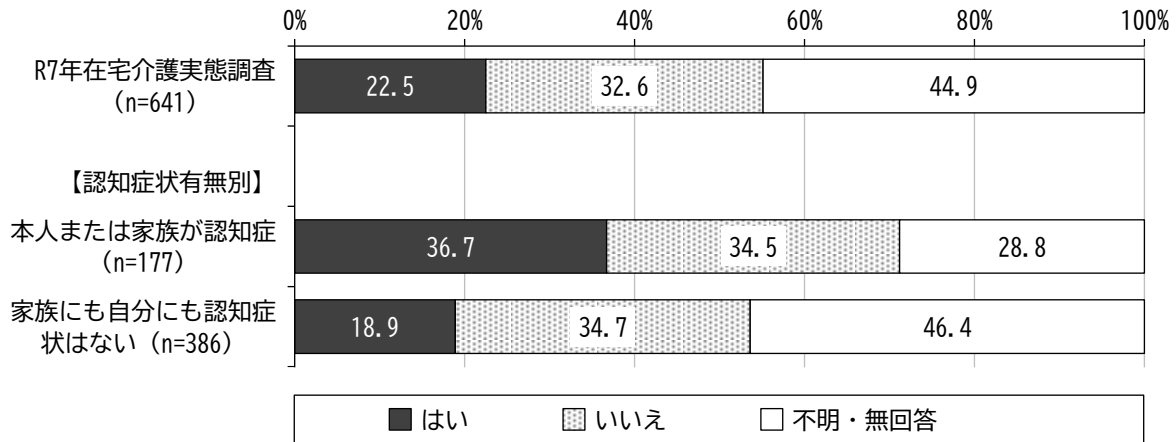
#### (2) 地域生活において認知症の人が尊重され、本人が望む生活が継続できているか（単数回答） | 問20

- 「はい」が24.3%、「いいえ」が33.1%となっています。
- 家族にも自分にも認知症状はない人と比べて、本人または家族に認知症状がある人で地域において認知症の人が尊重され、本人の望む生活ができていると感じている人が多くなっています。



### (3) 東郷町は認知症の人が自分らしく暮らせるまちか (単数回答) | 問 21

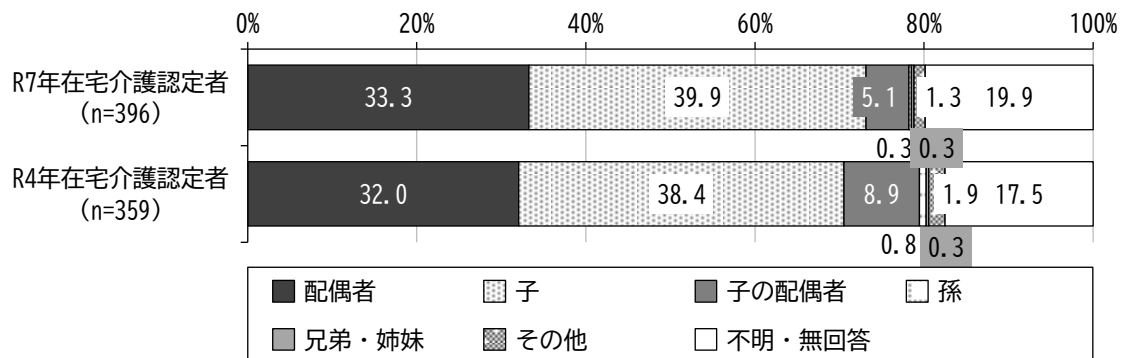
- 「はい」が22.5%、「いいえ」が32.6%となっています。
- 家族にも自分にも認知症状はない人と比べて、本人または家族に認知症状がある人で東郷町は認知症の人が自分らしく暮らせると感じている人が多くなっています。



## 5. 主な介護者自身のことについて

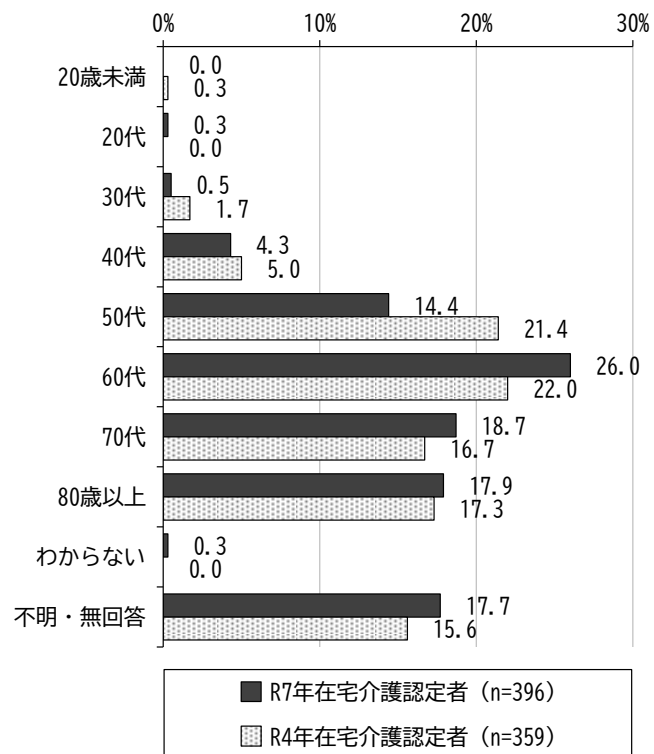
### (1) 主な介護者の方は、どなたですか。(単数回答) | B票問1

- 「子」と「配偶者」の割合が高くなっています。



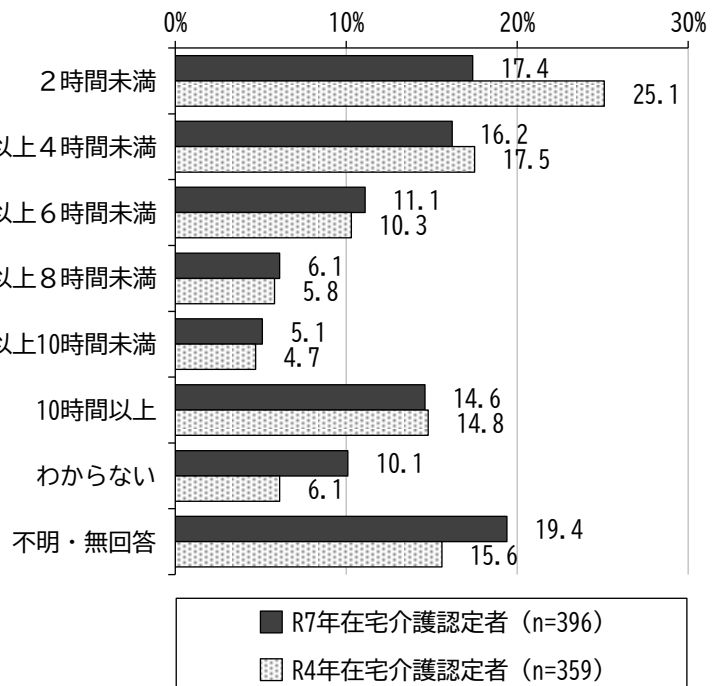
## (2) 主な介護者の年齢（単数回答） | B票問3

- 60代以上の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、60代以上で増加しており、介護者の高齢化や老々介護が進んでいることがうかがえます。



## (3) 主な介護者の一日の平均的な介護時間（単数回答） | B票問5

- 「2時間未満」「2時間以上4時間未満」「10時間以上」の割合が高くなっています。
- 要介護度別でみると、要介護3・4で「10時間以上」の割合が高くなっています。

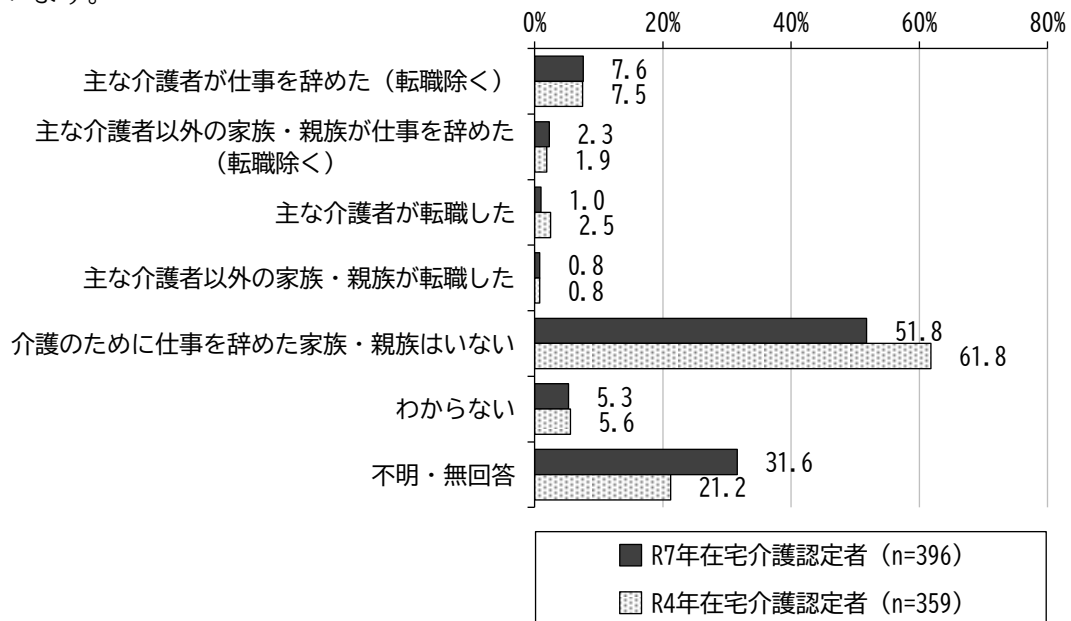


単位：%		2時間未満	2時間未満以上4	4時間未満以上6	6時間未満以上8	8時間未満以上10	10時間以上	わからない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=64)	10.9	12.5	6.3	4.7	6.3	6.3	7.8	45.3
	要支援2 (n=132)	21.2	12.9	8.3	3.8	3.8	9.8	14.4	25.8
	要介護1 (n=68)	23.5	20.6	11.8	5.9	4.4	13.2	14.7	5.9
	要介護2 (n=62)	12.9	16.1	22.6	8.1	11.3	19.4	6.5	3.2
	要介護3 (n=29)	10.3	27.6	10.3	10.3	0.0	34.5	3.4	3.4
	要介護4 (n=14)	28.6	21.4	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	要介護5 (n=15)	13.3	20.0	13.3	26.7	6.7	13.3	0.0	6.7

## 6. 仕事と介護の両立について

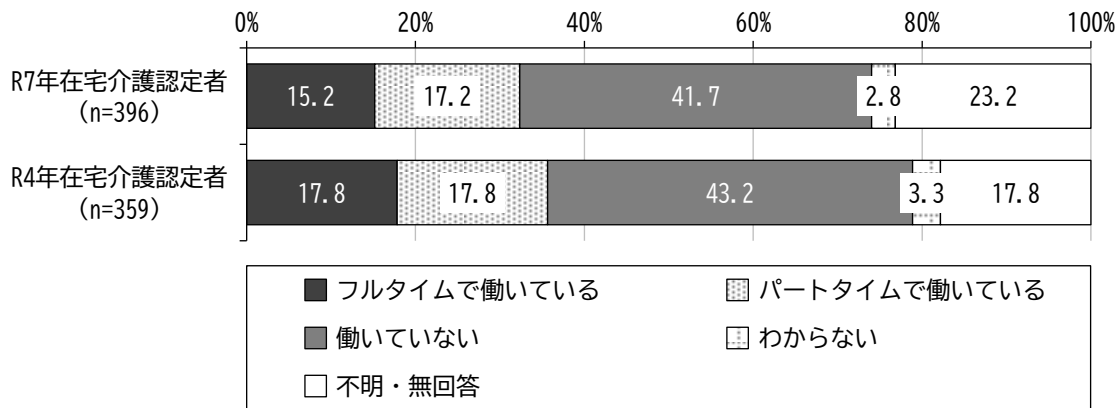
### (1) 介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた家族・親族の有無（複数回答） | B票問8 ※自営業や農業等の仕事を辞めた方を含む。

- 「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は7.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が10.0ポイント低くなっています。



## (2) 主な介護者の現在の勤務形態（単数回答） | B票問9

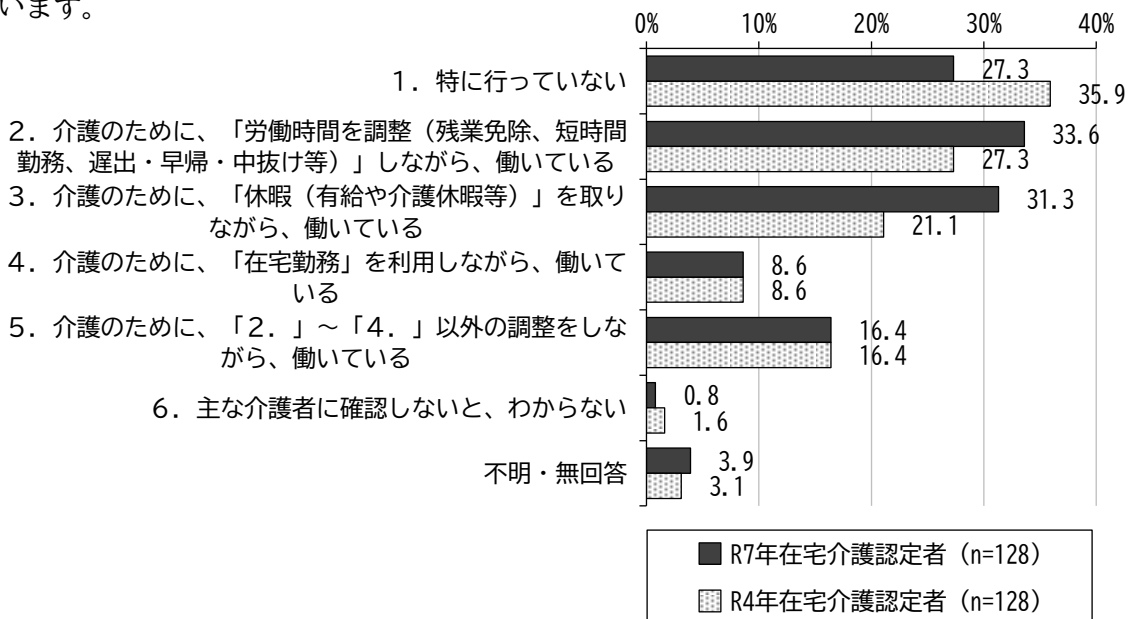
- 就労している主な介護者は32.4%となっています。
- 前回調査と比較すると、フルタイムで働いている人がわずかに減少しています。



## (3) 介護をするに当たって働き方の調整等をしているか（複数回答） | B票問10

※【問9で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

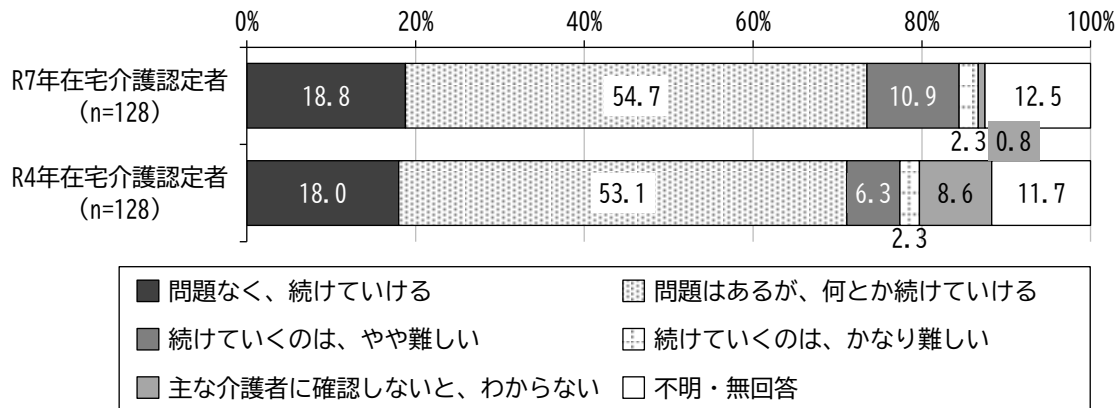
- なんらかの調整をしながら働いている介護者が約7割となっています。
- 前回調査と比較すると、労働時間を調整している人や休暇を取りながら働いている人が増加しています。



#### (4) 今後も働きながら介護を続けていけそうか (単数回答) | B票問12

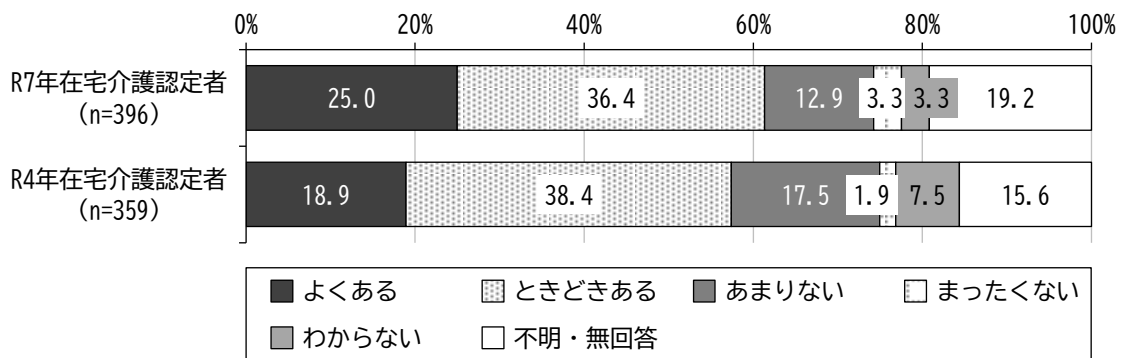
【問9で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

- 続けていける介護者が約7割となっています。
- 前回調査と比較すると、「続けていくのは、やや難しい」が増加しています。



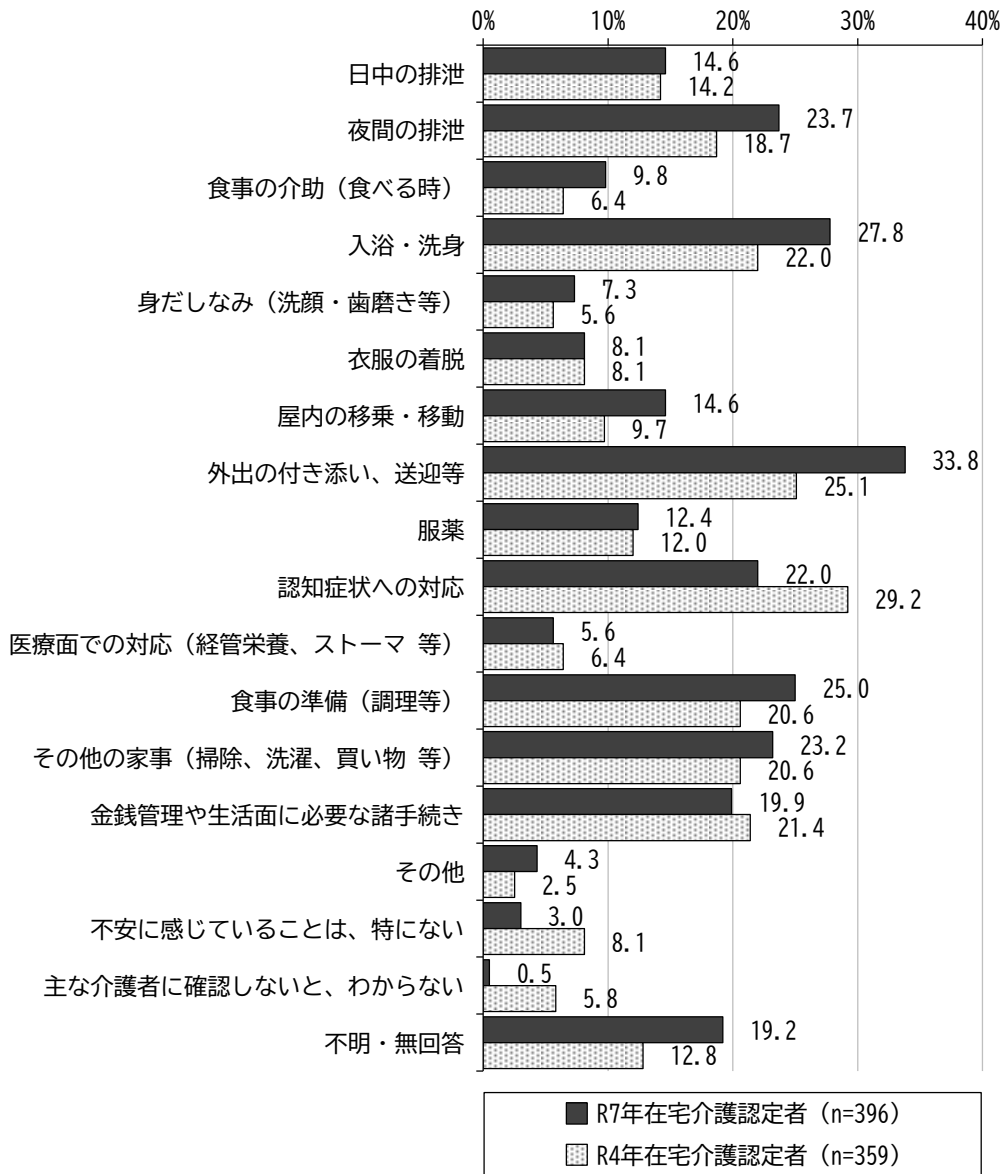
#### (5) 介護をしているとき、不安に感じることはあるか (単数回答) | B票問13

- 不安を感じることがある介護者が約6割となっています。
- 前回調査と比較すると、「よくある」が増加しています。



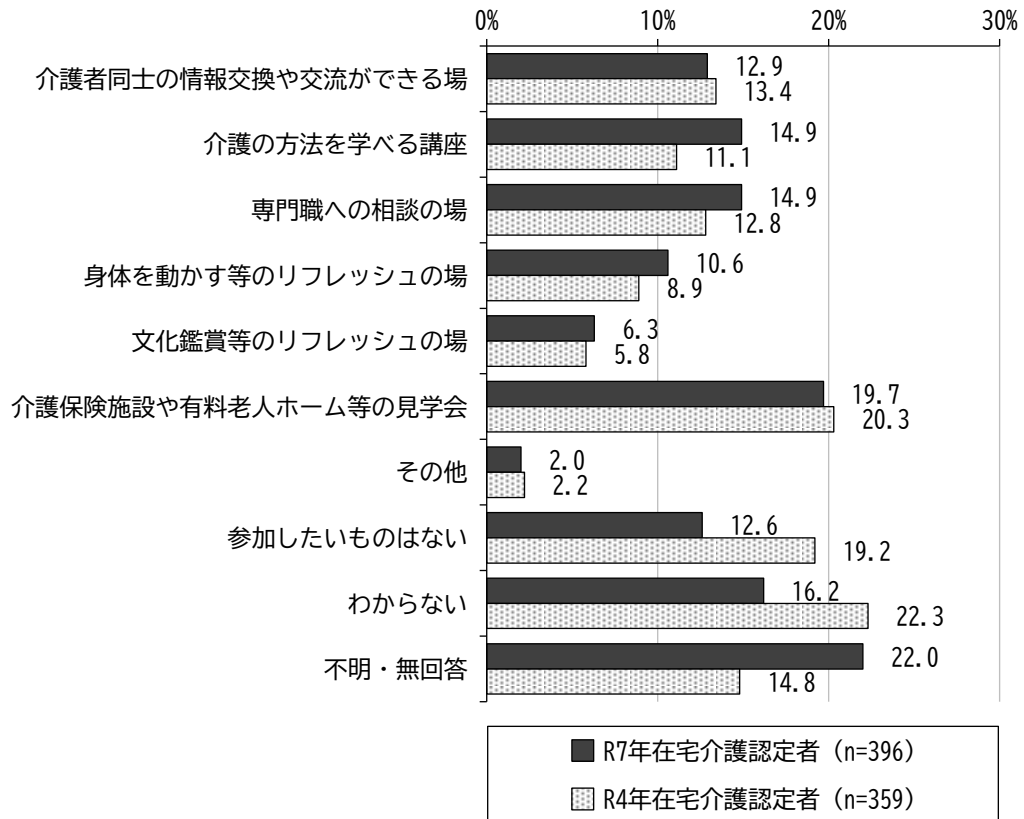
(6) 現在の生活を継続していくにあたって介護者が不安に感じる介護等（3つまで複数回答） | B票問 14

- 外出の付き添い、送迎等や入浴・洗身の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、外出の付き添い、送迎等が特に増加しており、認知症状への対応が特に減少しています。



(7) 介護者の支援としてあると良いもの（参加したいもの）（複数回答） | B票問 16

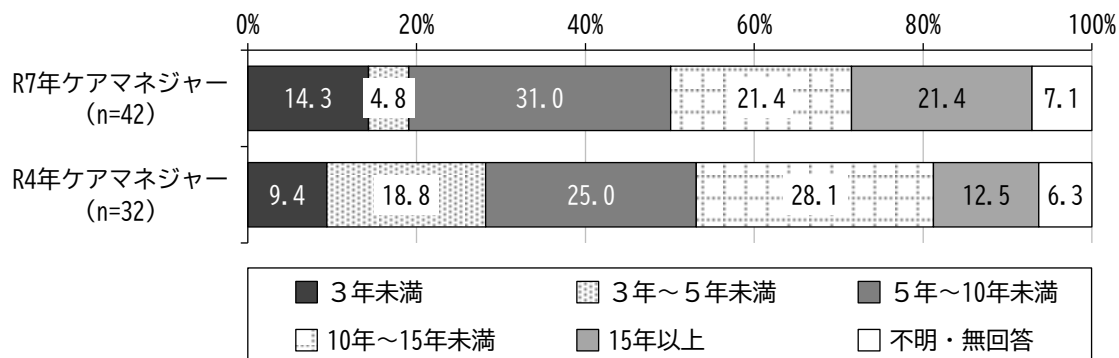
- 介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、参加したいものはないが減少しています。



## IV ケアマネジャー調査の結果

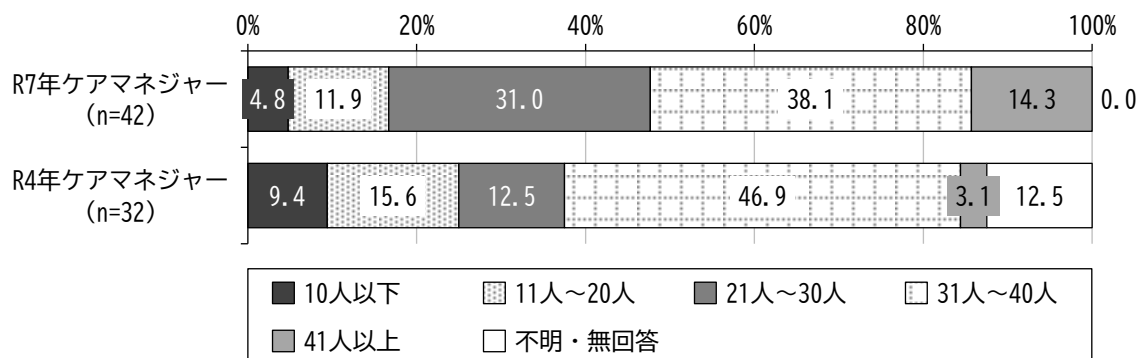
### (1) ケアマネジャーとしての経過年数（数量回答） | 問1

- 5年～10年未満の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、経験年数が5年以上のケアマネジャーが増加しています。



### (2) ケアプランの担当数（数量回答） | 問3

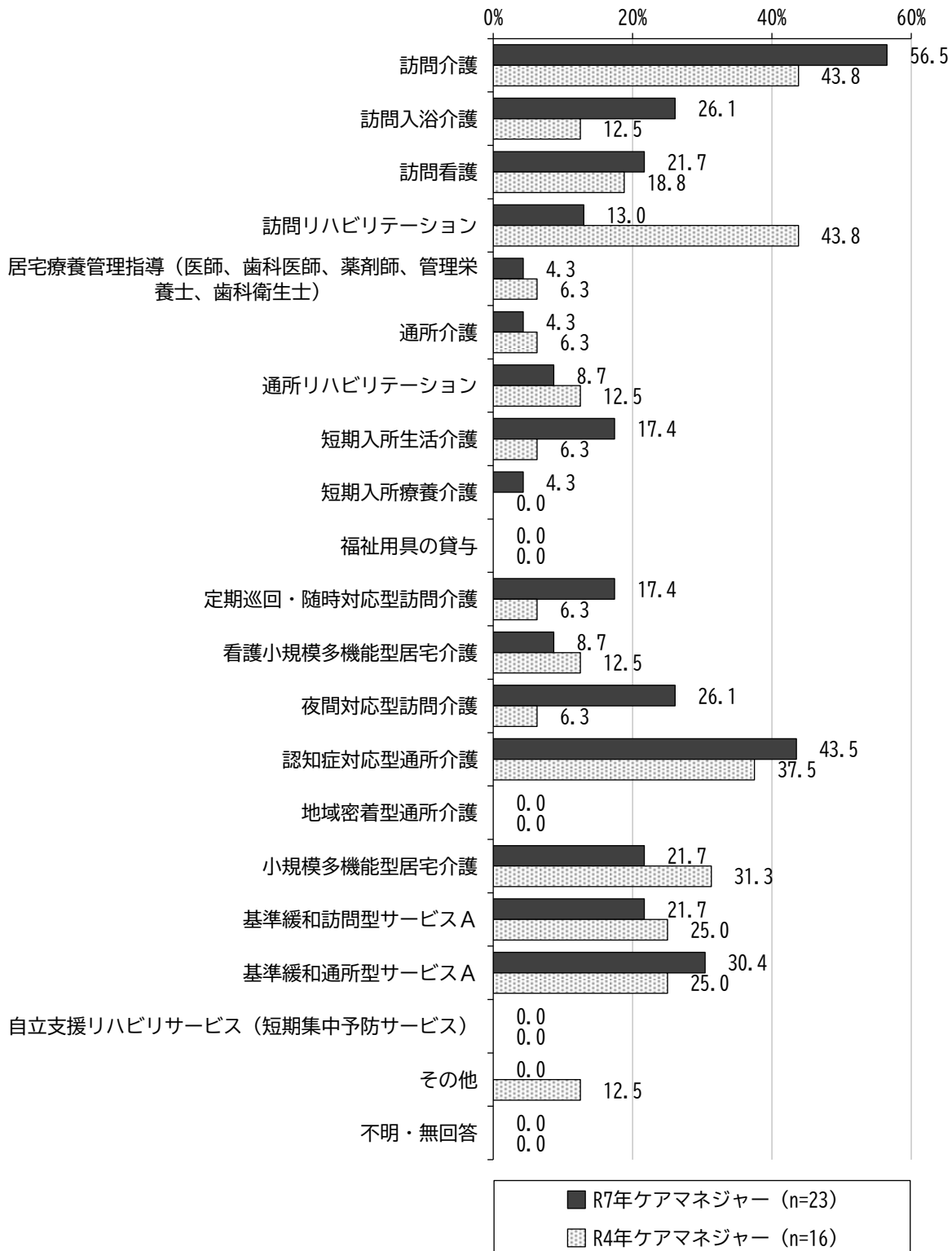
- 31人以上を担当しているケアマネジャーが5割を占めています。



### (3) 居宅サービスの中で供給が不足していると感じているサービス（複数回答）

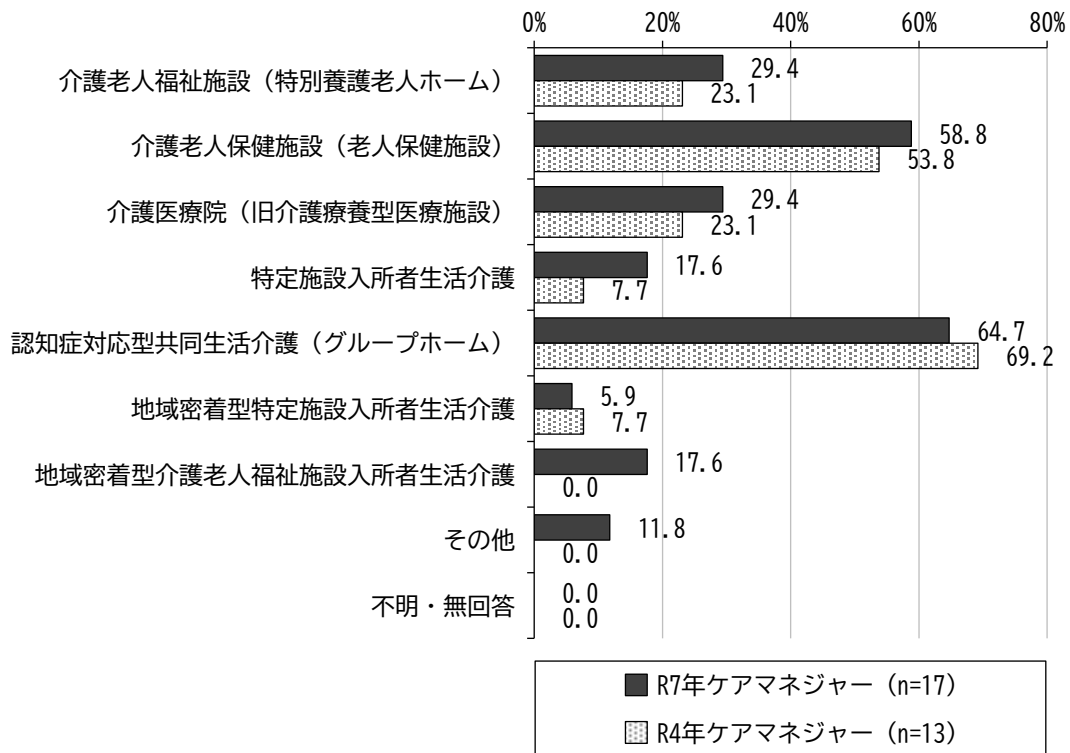
#### 問4-1

- 訪問介護や認知症対応型通所介護の割合が高くなっています。



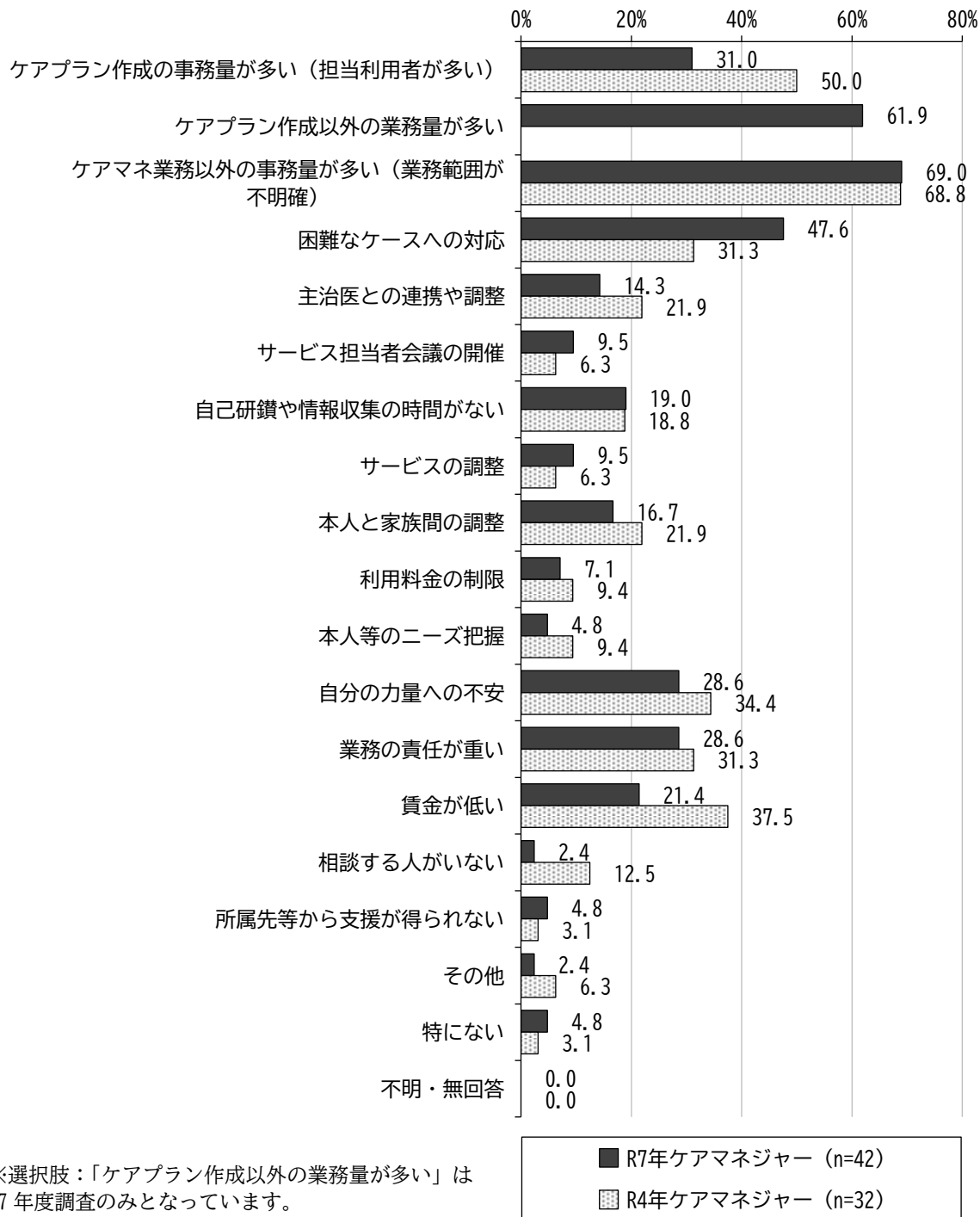
#### (4) 不足していると考える（施設）サービス（複数回答） | 問5-1

- 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）や介護老人保健施設（老人保健施設）の割合が高くなっています。



## (5) ケアマネジャーとして困っていること（5つまで複数回答） | 問 14

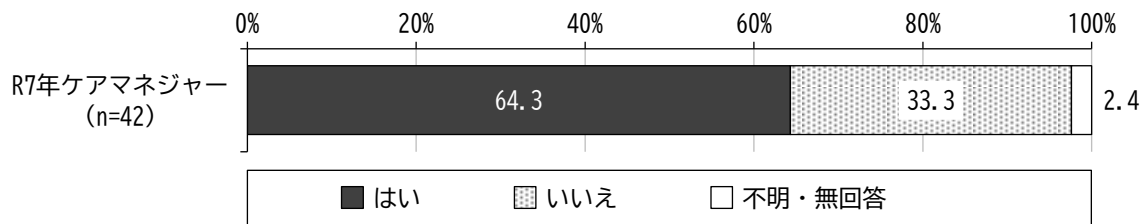
- ケアマネ業務以外の事務量（業務範囲が不明確）やケアプラン作成以外の業務量が多いことが上位となっています。
- 前回調査と比較すると、「困難なケースへの対応」が増加しています。



※選択肢：「ケアプラン作成以外の業務量が多い」は R7 年度調査のみとなっています。

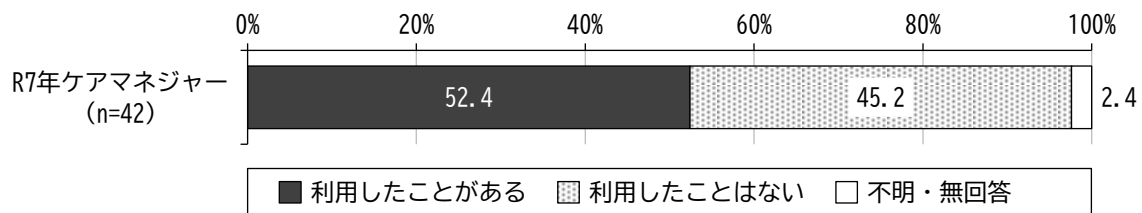
(6) 本来の業務以外の事項で業務中に負担感を感じる場面の有無（単数回答） | 問 15

- 「はい」が64.3%、「いいえ」が33.3%となっています。



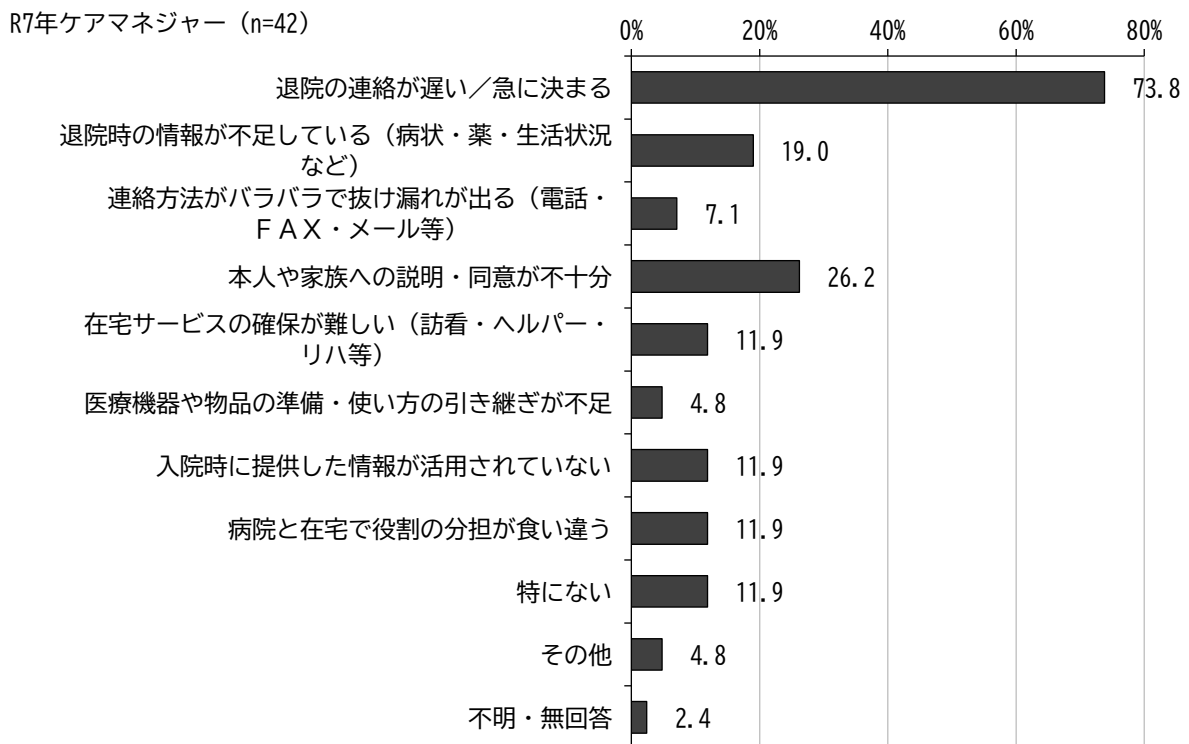
(7) 電子@連絡帳レガッタネットとうごうを利用した主治医等と介護サービス利用者の状況の共有状況（単数回答） | 問 20

- 利用したことがあるケアマネジャーが約5割となっています。



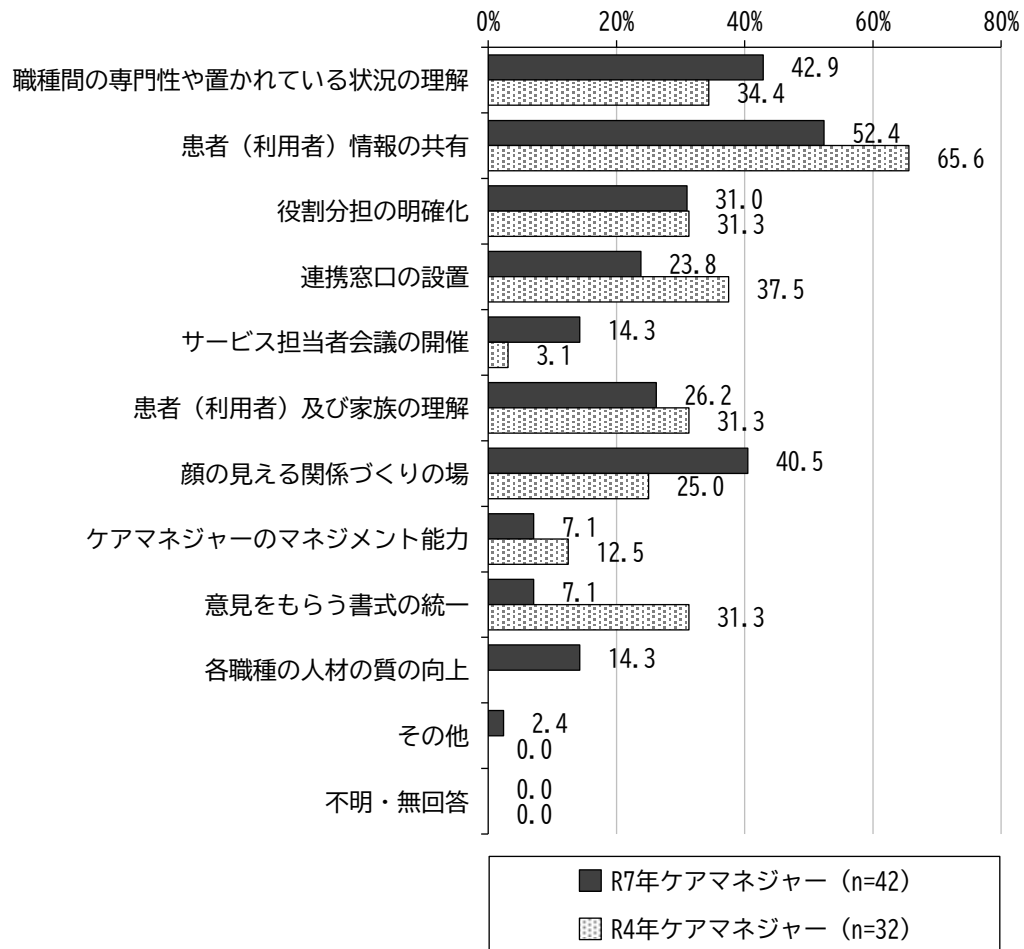
(8) 入院退院時の連携で困っていること（複数回答） | 問 24

- 退院の連絡が遅い／急に決まることの割合が特に高くなっています。



(9) 医療機関や医療従事者等他職種との連携のため必要なこと（3つまで複数回答） | 問 27

- 患者（利用者）情報の共有や職種間の専門性や置かれている状況の理解の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、顔の見える関係づくりの場やサービス担当者会議の開催が増加しています。

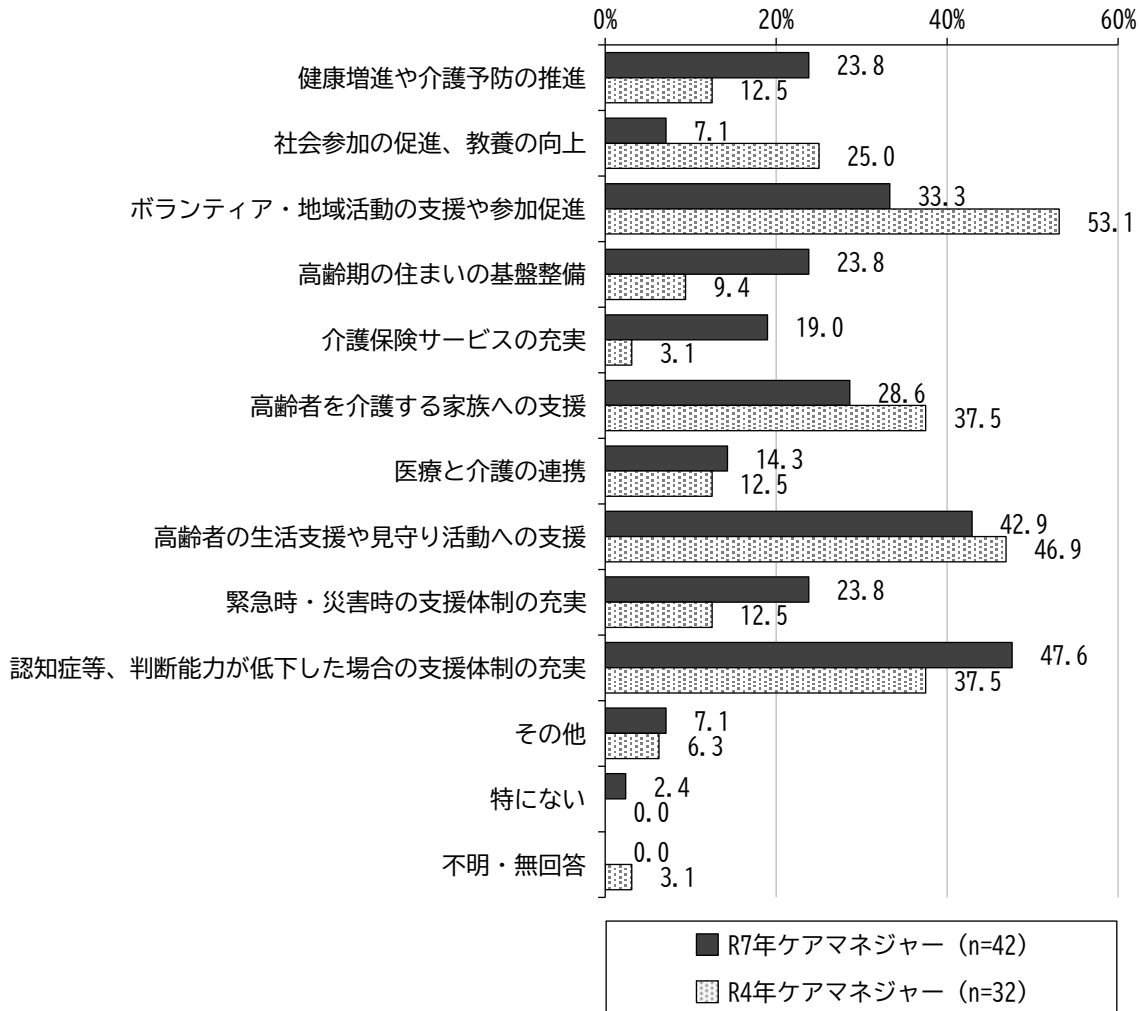


※選択肢：「各職種の人材の質の向上」は R7 年度調査のみとなっています。

※R7 年度調査の選択肢「顔の見える関係づくりの場」「ケアマネジャーのマネジメント能力」は、R4 年度調査では「医師との適切な関係づくり」「ケアマネジャーの積極的な行動」となっています。

(10) 高齢者の保健福祉や介護予防等に関する取組を進めていく上で、町が重点を置くべきこと（3つまで複数回答） | 問 30

- 認知症等、判断能力が低下した場合の支援体制の充実や高齢者の生活支援や見守り活動への支援の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、特に介護保険サービスの充実や高齢期の住まいの基盤整備が増加、ボランティア・地域活動の支援や参加促進、社会参加の促進、教養の向上が減少しています。

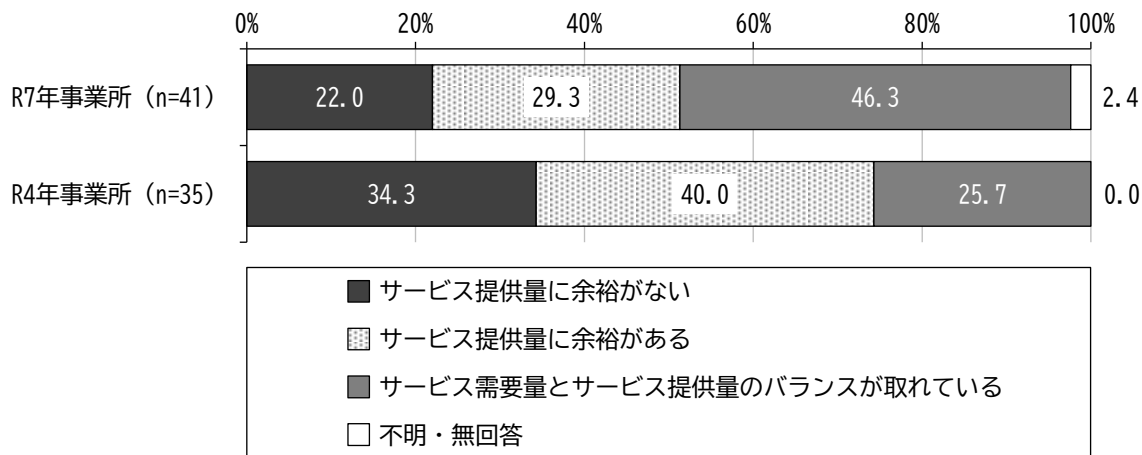


# V 事業者調査の結果

## 1. サービス提供の概要について

### (1) 貴事業所のサービス提供状況（単数回答） | 問2

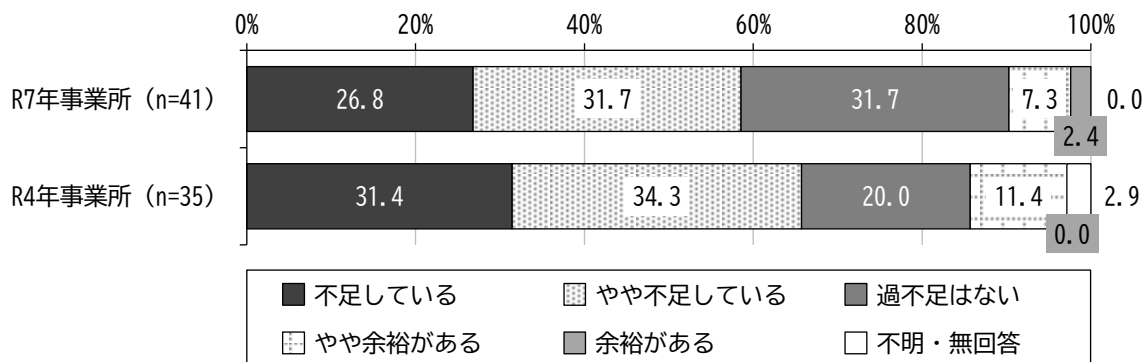
- 需要と共有のバランスがとれている事業所が約5割となっています。



## 2. 人材確保の状況について

### (1) 職員数の過不足はありますか。（単数回答） | 問4

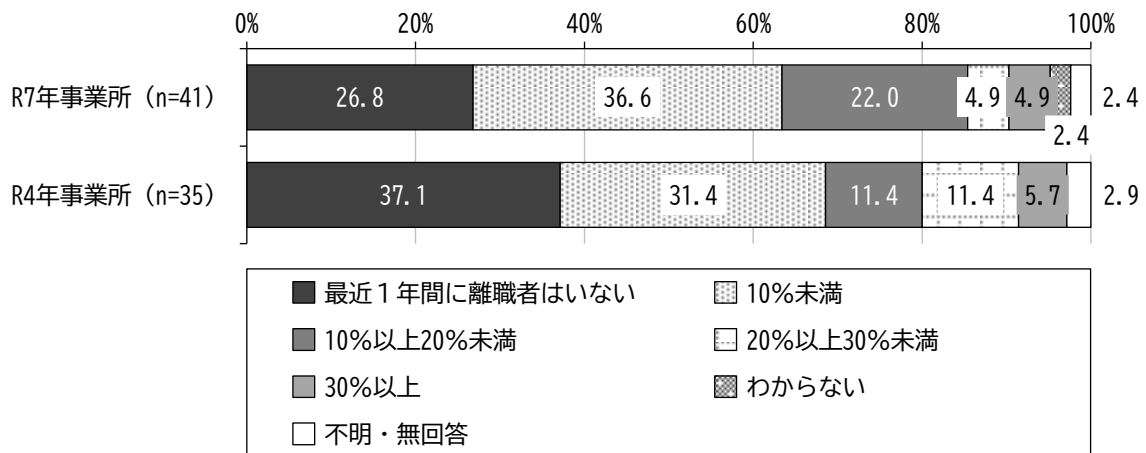
- 職員数に不足を感じている事業所は5割以上となっています。
- 前回調査と比較すると、過不足はないが増加しています。



※選択肢：「特になし」はR7年度調査のみとなっています。

## (2) この1年間の離職率（単数回答） | 問6

- 最近1年間に離職者はいない事業所が約3割となっています。
- 前回調査と比較すると、最近1年間に離職者はいない事業所は減少しています。

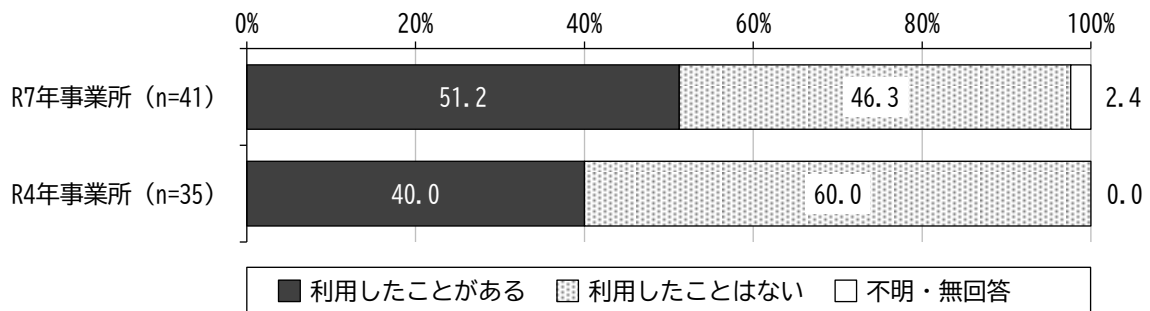


※選択肢：「わからない」はR7年度調査のみとなっています。

## 3. 他機関等との連携状況について

### (1) 電子@連絡帳レガッタネットとうごうを利用した主治医等と介護サービス利用者の状況の共有状況（単数回答）

- 利用したことがある事業所が約5割となっています。
- 前回調査と比較すると、利用したことがある事業所が増加しています。

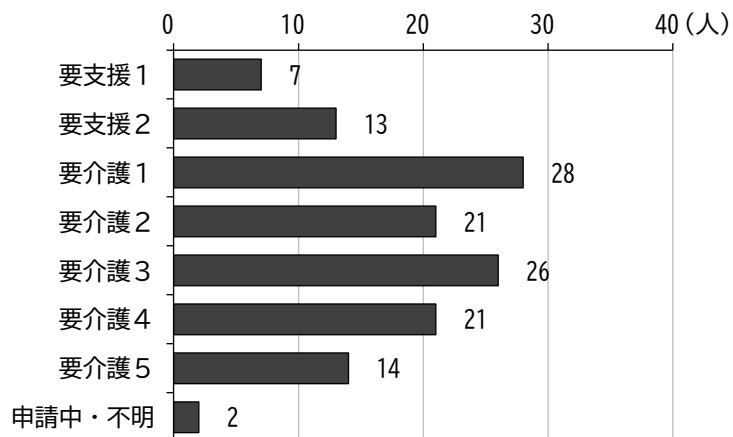


## VI 在宅生活改善調査の結果

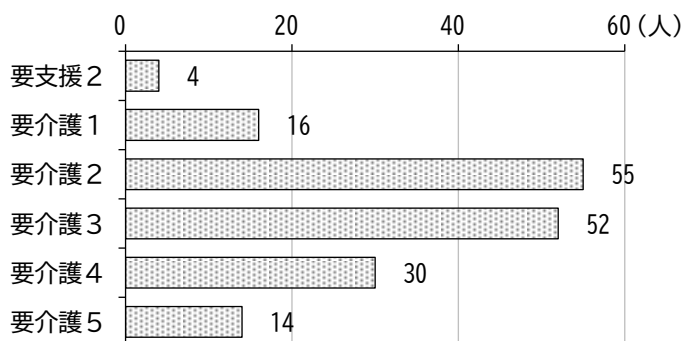
### (1) 過去1年で自宅等から、居場所を変更した利用者（要介護度別） | 事業所票問2

- 過去1年の間に居場所を変更した利用者は、13事業所の合計で132人となっています。
- 要介護1が28人と最も多く、次いで要介護3が26人となっています。

R7年事業所 (n=13)

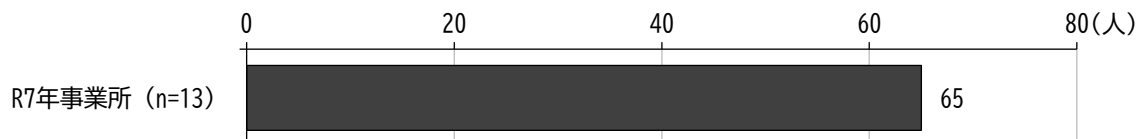


R4年事業所 (n=12)



### (2) 過去1年で自宅等で死亡した利用者 | 事業所票問2

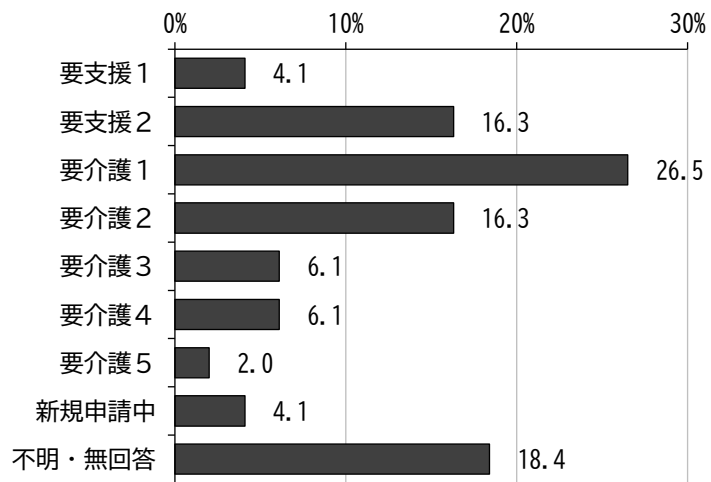
- 自宅等での死亡した利用者は、13事業所の合計で65人となっています。



(3) 「自宅」、「サ高住」、「住宅型有料」、「軽費老人ホーム」にお住まいの方のうち「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者の要支援・要介護度（単数回答） | 利用者票問1-3

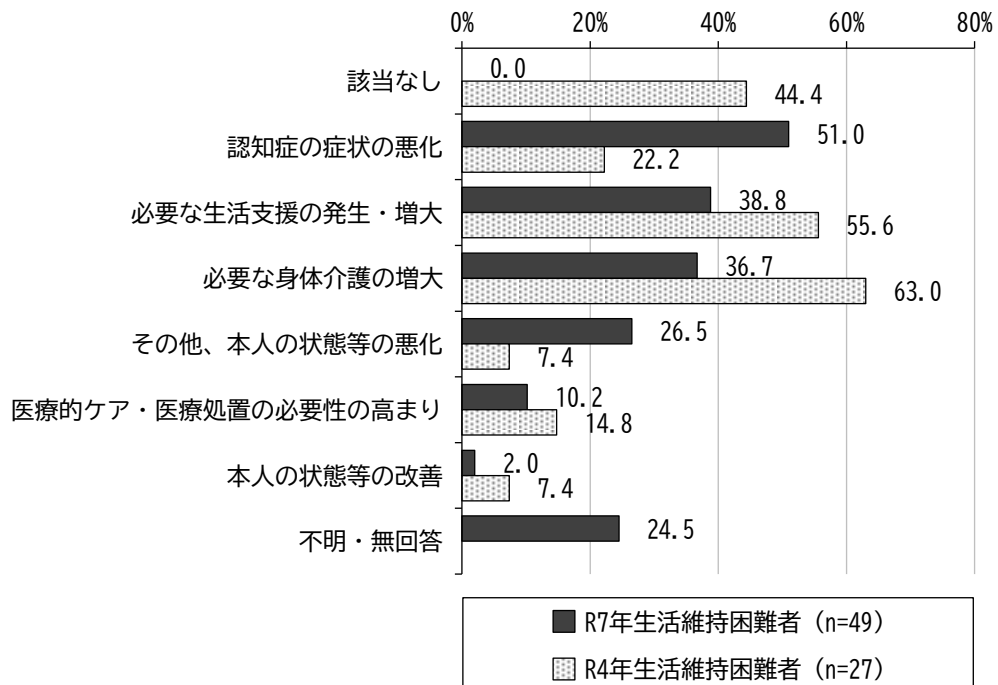
- 要介護1の割合が最も高く、次いで「要支援2」「要介護2」となっています。

R7年生活維持困難者 (n=49)



(4) 生活の維持が難しくなっている理由のうち本人の状態等に属する理由（複数回答） | 利用者票問2-1

- 認知症の症状の悪化や必要な生活支援の発生・増大の割合が高くなっています。
- 前回調査と比較すると、認知症の症状の悪化やその他、本人の状態等の悪化が特に増加しています。



## Ⅶ 居所変更実態調査の結果

### (1) 過去1年間（令和6年12月1日～令和7年11月30日）に、貴施設等を退去した人の人数（要介護度別） | 問8・9

- [住宅型有料老人ホーム][グループホーム][特別養護老人ホーム]は退去者の半数以上が「死亡」となっています。

	回答施設数(件)	過去1年間の退去者数合計(人)	退去者の要介護度別の割合(%)									
			自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	死亡
住宅型有料老人ホーム	10	126	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	9.5	16.7	17.5	0.0	50.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
特定施設	1	15	0.0	0.0	0.0	6.7	26.7	40.0	20.0	6.7	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	15	0.0	0.0	0.0	13.3	33.3	33.3	20.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	51	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8	15.7	5.9	0.0	68.6
地域密着型特別養護老人ホーム	2	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	27.8	16.7	0.0	0.0
合計	18	228	0.0	0.0	0.0	3.1	5.7	16.7	17.5	13.2	0.0	43.9

### (2) 入居・入所者が、退去する理由（3つまで複数回答） | 問11

- 医療的ケア・医療処置の必要性が高まったからや費用負担が重くなったからの割合が高くなっています。

	回答施設数(件)	退去理由として多いもの(%)										
		必要な生活支援が発生・増大したから	必要な身体介護が発生・増大したから	認知症の症状が悪化したから	医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	左記以外の状態像が悪化したから	入所・入居者の状態等が改善したから	入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	費用負担が重くなったから	本人が希望したから	その他	不明・無回答
住宅型有料老人ホーム	10	0.0	20.0	20.0	30.0	0.0	10.0	0.0	50.0	20.0	10.0	20.0
グループホーム	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
特定施設	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	0.0	16.7	16.7	61.1	0.0	22.2	0.0	38.9	16.7	11.1	11.1

## Ⅷ 介護人材実態調査の結果

### (1) 過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数（常勤・非常勤別） | 問2-3

- 採用者数と離職者数は以下の通りです。
- 訪問系サービスの常勤と通所系サービスで特に定着率が低くなっています。

	回答事業 所数（事 業所）	採用者数（人）			離職者数（人）		
		常勤職員	非常勤職 員	小計	常勤職員	非常勤職 員	小計
全サービス系統	53	87	156	243	66	81	147
訪問系サービス	16	29	80	109	25	36	61
施設・居住系サービス	21	42	58	100	29	31	60
通所系サービス	16	16	18	34	12	14	26

第10期東郷町高齢者福祉計画策定のための  
アンケート調査結果報告書  
【抜粋版】

発行：令和8年3月

発行者：東郷町

編集：福祉こども部 高齢者支援課

〒470-0198

愛知県愛知郡東郷町大字春木字羽根穴1番地

TEL：(0561) 56-0753 (直通)